

2022年3月期 第2四半期決算説明会資料

株式会社 **メルコホールディングス**

2021年11月

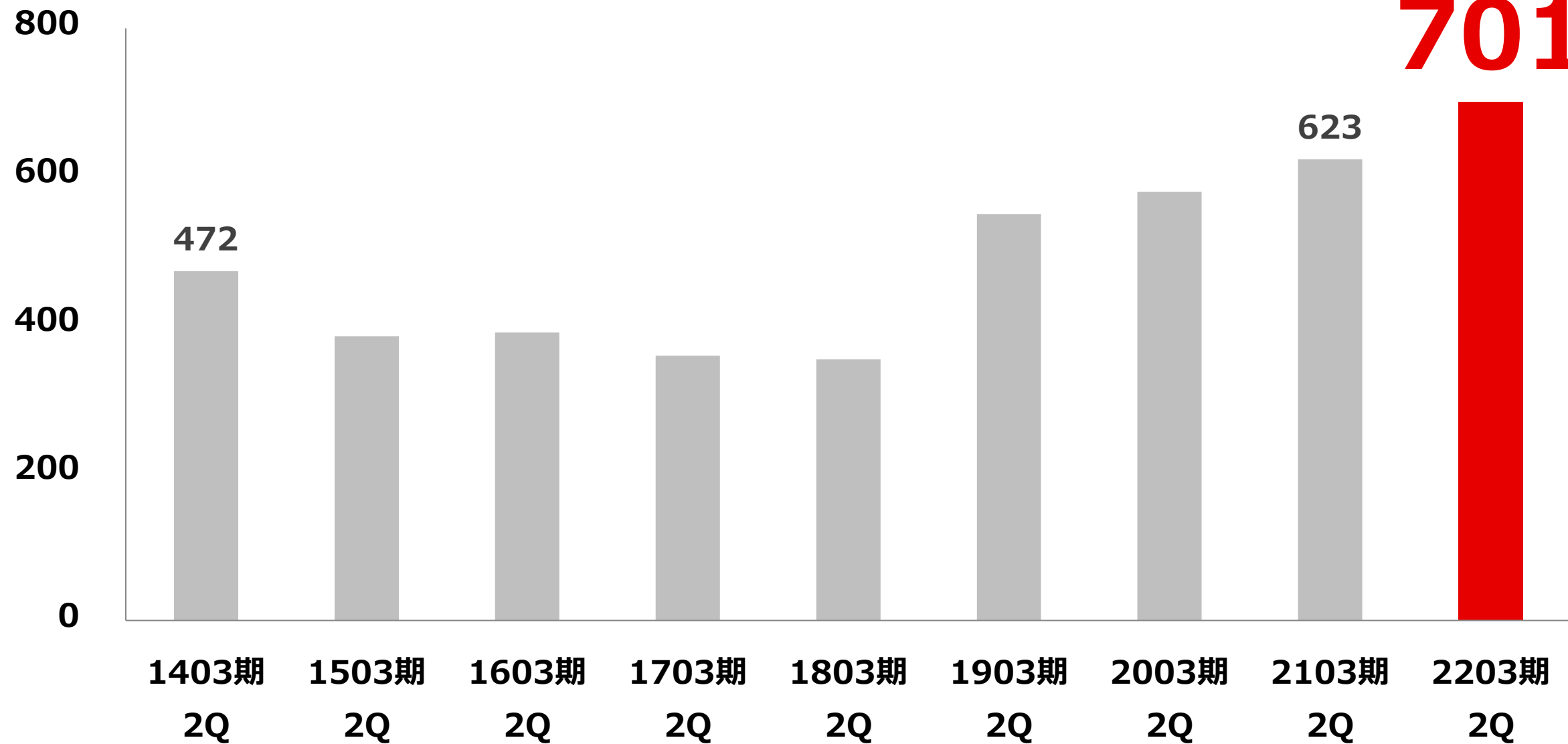
1. 2022年3月期 第2四半期決算概要	P.2
2. 重点取組み報告	
・ IT関連事業	P.13
・ 食品事業	P.23
3. 2022年3月期 業績予想・ 資本政策の基本的な方針	P.29
4. メルコグループのご紹介	P.33
5. 参考資料	P.38

1. 2022年3月期 第2四半期決算概要

第2四半期連結売上高

メルコグループ

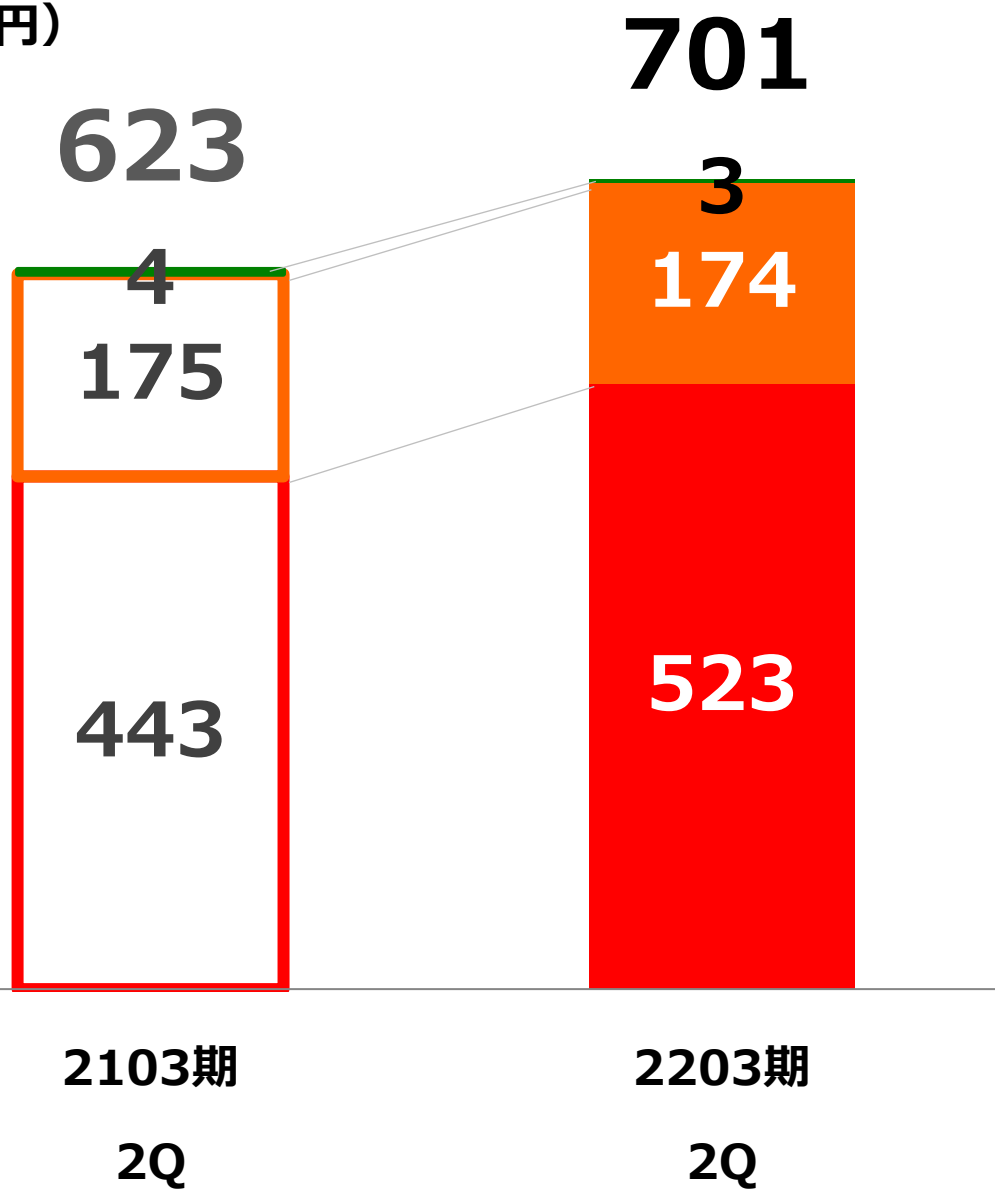
(億円)



上場来最高
701億円

※億円未満は切り捨てて表示しております。

(億円)



IT関連事業

構成比：74.6%

個人・法人向け高付加価値商品の拡販に注力
Airdog、AMD社製CPUの販売も好調に推移

食品事業

24.9%

業務用は前年の大幅減の反動等で拡大するも
家庭用は主力商品等の縮小により売上減少

金融事業

0.5%

引き続き、難しい運用環境により預かり資産
が減少

※億円未満は切り捨てて表示しております。

※AMD、Ryzen及びこれらの組み合わせは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標です。

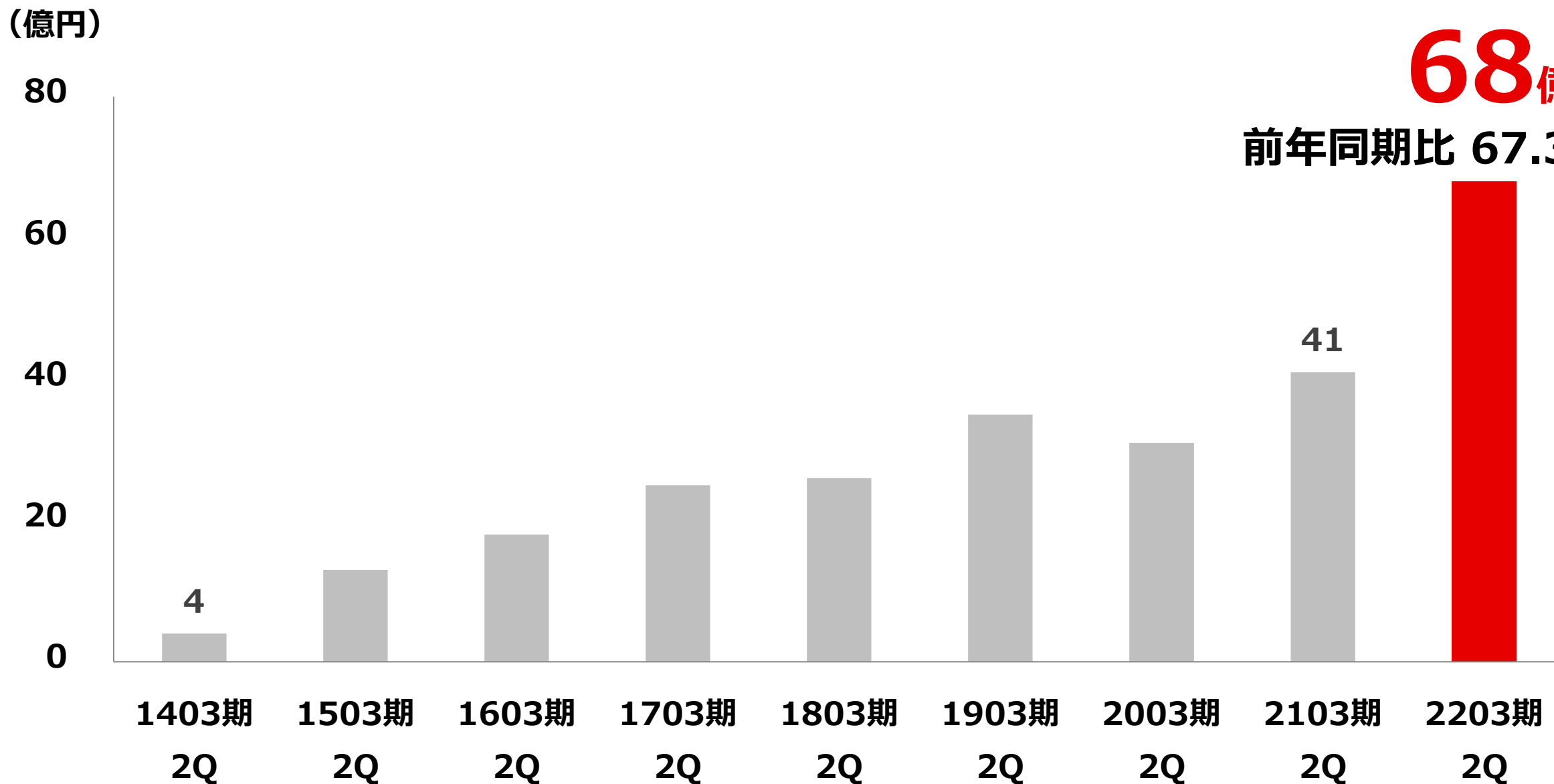
第2四半期連結営業利益

メルコグループ

上場来最高

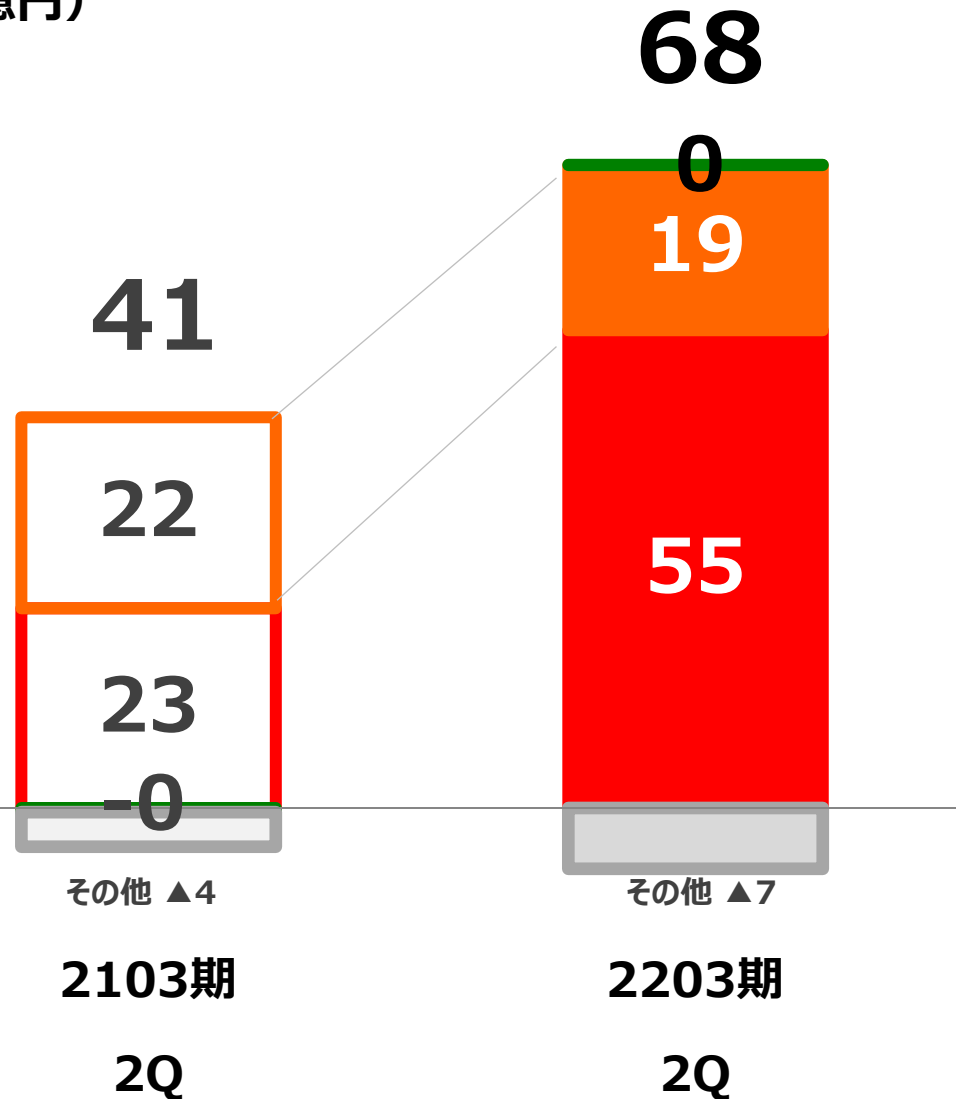
68億円

前年同期比 67.3%増



※億円未満は切り捨てて表示しております。

(億円)



IT関連事業

構成比：73.0%

前期比 135.6%増

高付加価値商品やAirdog等の拡販が寄与

食品事業

25.8%

前期比 11.3%減

広告販促費の積極的な投入によるコスト増加

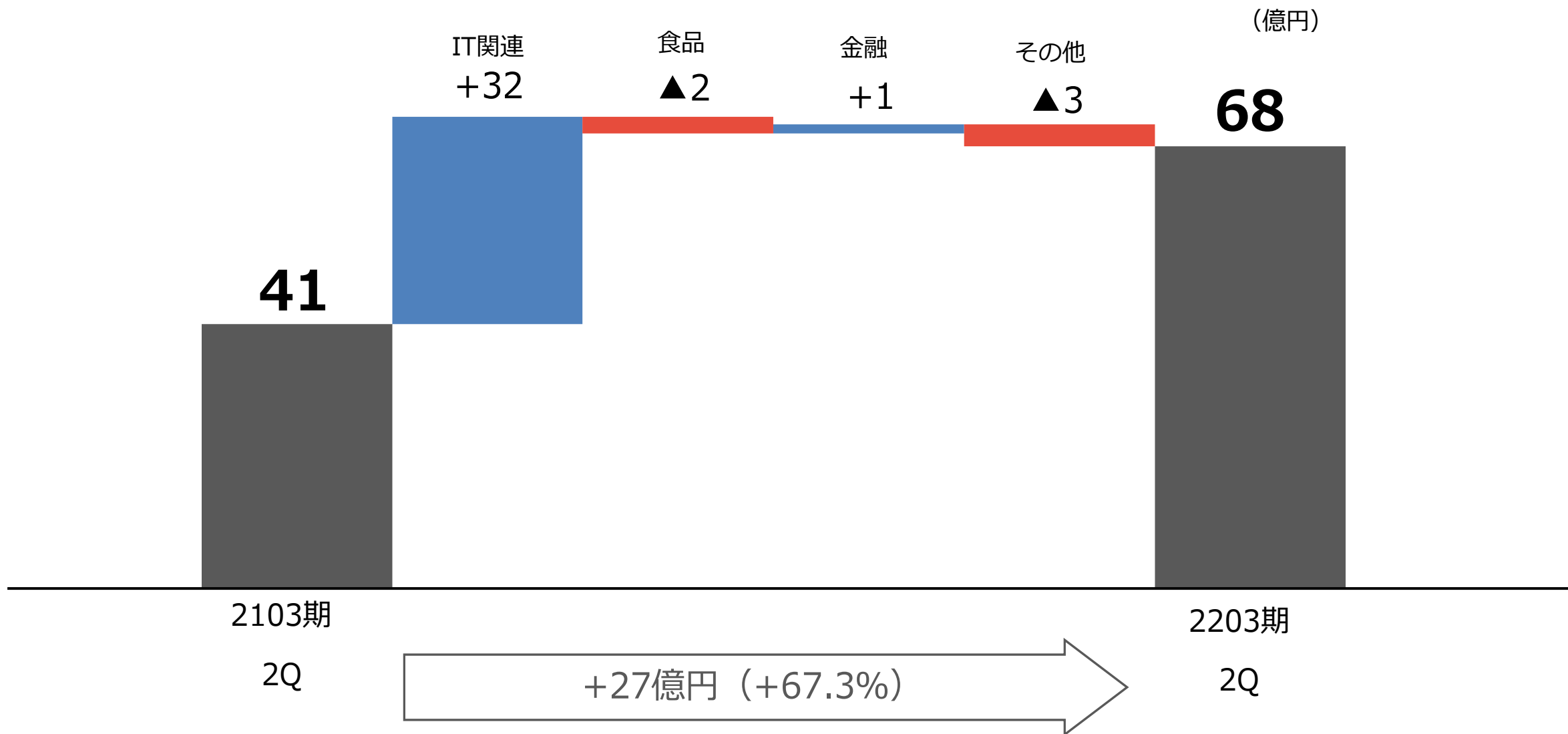
金融事業

1.2%

前期比 1.4億円増

経費削減効果により黒字化

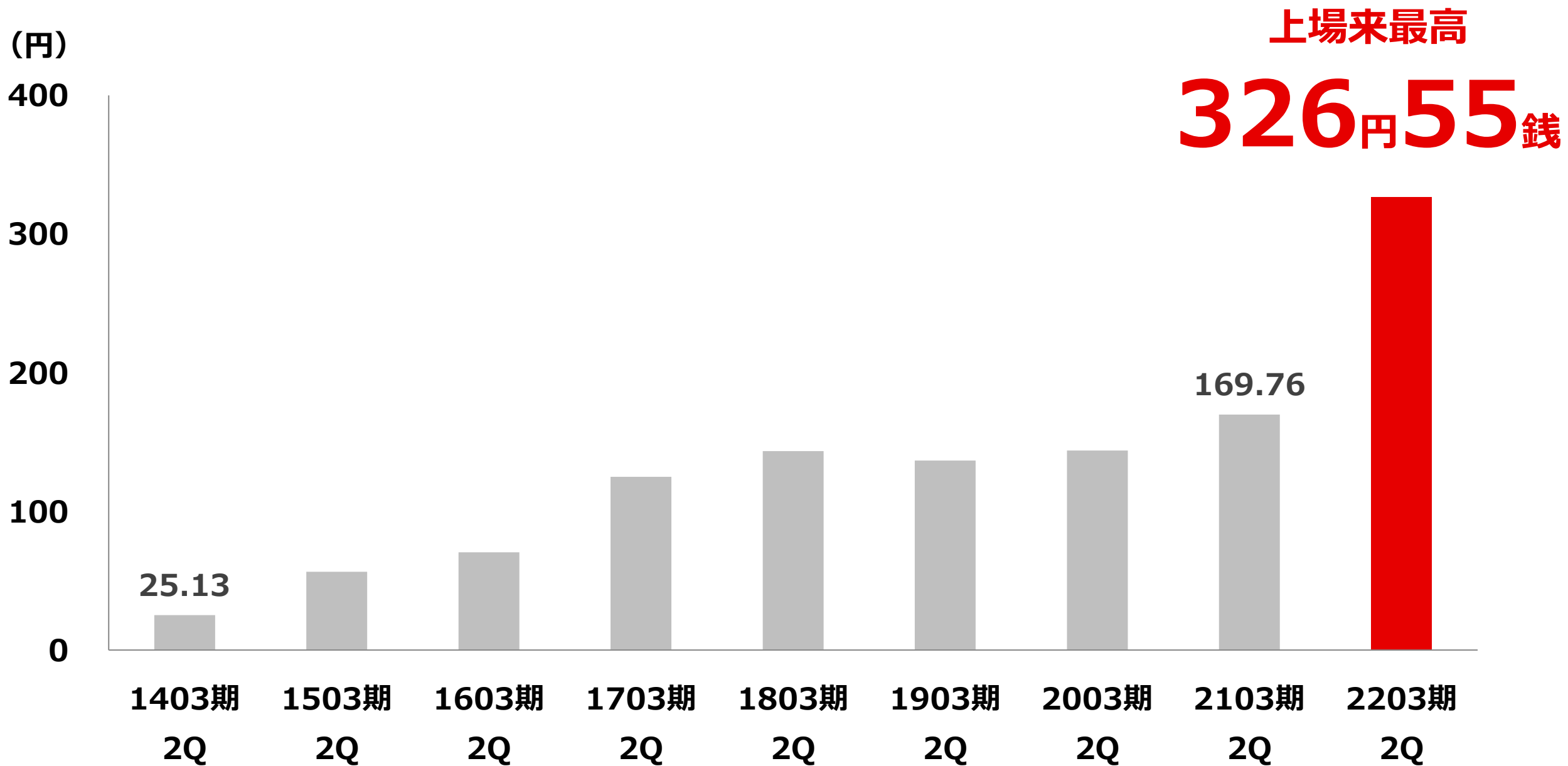
※その他：報告セグメントに含まれない事業セグメント損益、セグメント間取引消去
 ※億円未満は切り捨てて表示しております。



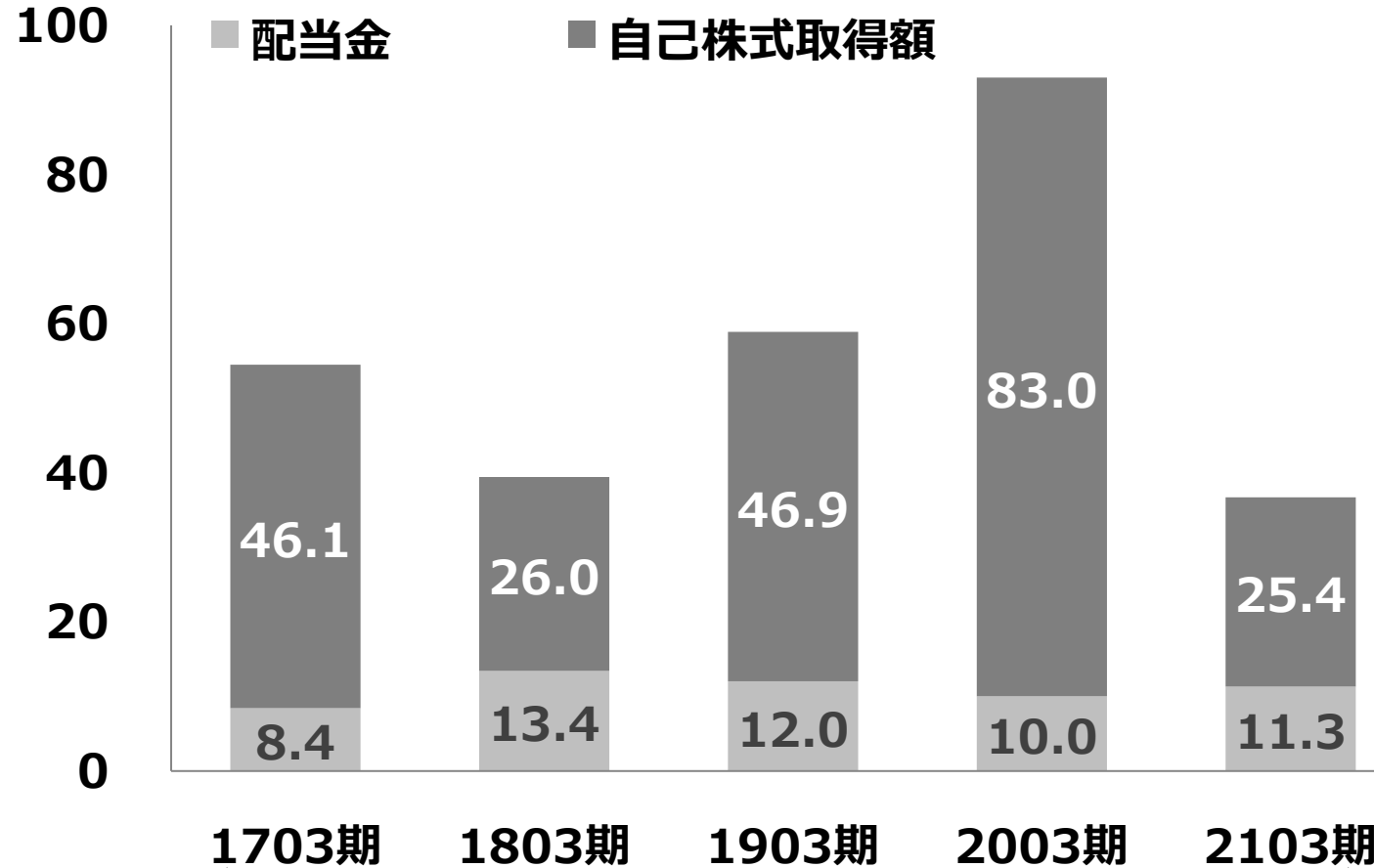
※億円未満は切り捨てて表示しております。

一株当たり第2四半期純利益

メルコグループ



(億円)



資本政策の基本的な方針および堅調な業績推移を踏まえ、

- 2022年3月期の中間配当金は、**1株当たり40円から50円に増額**
- 2022年3月期末の配当予想に関しても、**1株当たり40円から50円に増額修正**

総還元性向
106.7%

総還元性向(5年歴年)

122.4%

2022年3月期~2023年3月期 (2期)

総還元性向目標 **80%以上**

単位：百万円		2103期末	2203期 2Q末	差異
流動資産		67,759	66,223	△ 1,536
	現金及び預金	29,663	20,118	△ 9,545
	受取手形及び売掛金	14,578	15,366	787
	棚卸資産	13,790	20,745	6,955
	その他の流動資産	9,727	9,993	266
有形・無形固定資産		12,521	12,398	△ 123
投資その他の資産合計		5,520	5,557	36
資産合計		85,802	84,179	△ 1,622
流動負債		29,160	28,744	△ 415
	支払手形及び買掛金等	14,761	15,517	755
	未払法人税等	2,101	1,703	△ 398
	その他の流動負債	12,296	11,523	△ 772
固定負債		4,449	3,542	△ 906
負債合計		33,609	32,287	△ 1,322
純資産合計		52,193	51,892	△ 300
負債純資産合計		85,802	84,179	△ 1,622

※百万円未満は切り捨てて表示しております。

単位：百万円		2103期 2Q	2203期 2Q
設備投資		921	988
	有形	695	655
	無形	226	332
減価償却費		1,150	1,047
	有形	991	873
	無形	159	172
研究開発費		1,326	1,578

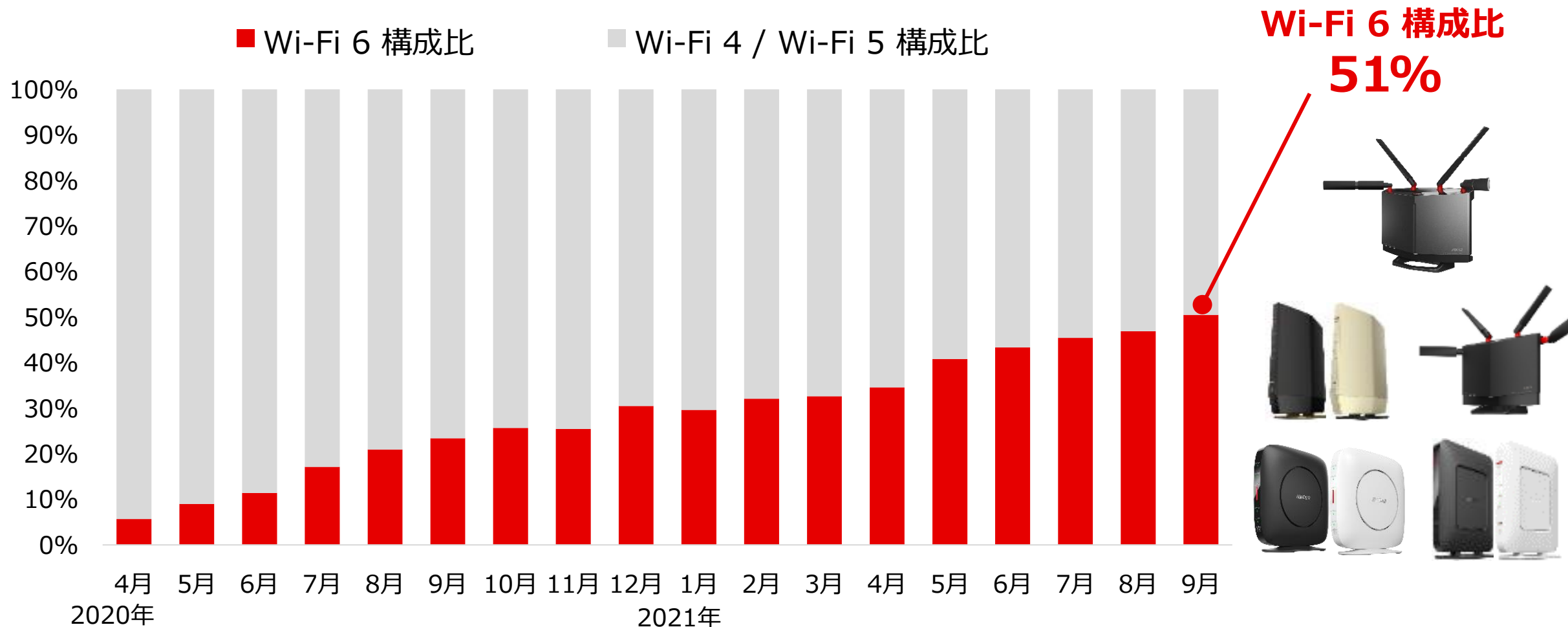
※百万円未満は切り捨てて表示しております。

2. 重点取組み報告

IT関連事業

昨年以降、Wi-Fi市場は急速にWi-Fi 6へシフト

Wi-Fi 6商品ラインナップ^o拡充により快適なWi-Fi環境を提供



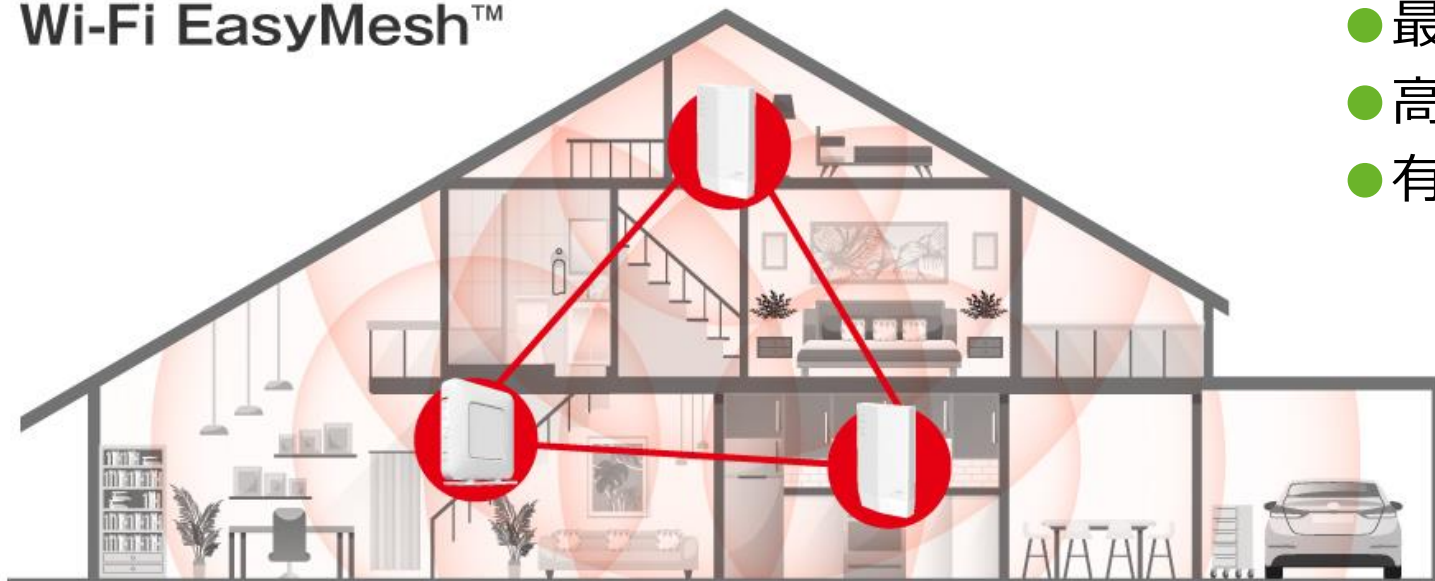
BCNランキング：Wi-Fiルーター（2020年4月～2021年9月までのデータを元に集計・加工）

手軽に家じゅう快適インターネット「Wi-Fi EasyMesh™」

最新世代Wi-Fi 6対応ルーター・中継機ラインナップを

「Wi-Fi EasyMesh™」対応モデルに

Wi-Fi EasyMesh™



- 最適な通信経路を自動で選択
- 高速ローミングで、シームレスにつなぎかえ
- 有線でもメッシュネットワーク構築が可能



※「Wi-Fi EasyMesh™」は、つながだけで親機と中継機同士が互いに通信しあい、網目（メッシュ）状にネットワークを構築する、Wi-Fiの仕組み。それぞれの機器がつながりあい、メッシュ状にネットワークを広げていくことで、大きな家や複雑な家でも、すみずみまで快適なWi-Fiを最適化するWi-Fi Alliance®の標準規格。
※ Wi-Fi EasyMesh™は、Wi-Fi Allianceの商標です。

株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメント (SIE) 協力のもと継承した、「nasne (ナスネ)®」を発売

- nasne®(NS-N100)は、地上デジタルとBS/110度CSデジタルチューナーを搭載し、自宅のネットワークにつながりだけで、スマートフォン・タブレット、さまざまな機器でいつでも、どこでもテレビ視聴や録画番組の予約、動画再生を楽しめるネットワークレコーダー&メディアストレージ
- 高品質・高速ネットワーク時代にあわせて nasne®も大容量化（内蔵ハードディスク容量：1TB⇒2TB）



企画賞



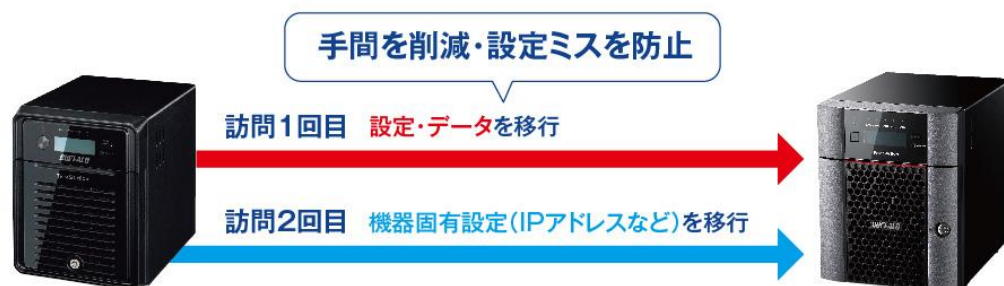
株式会社晋遊社 主催



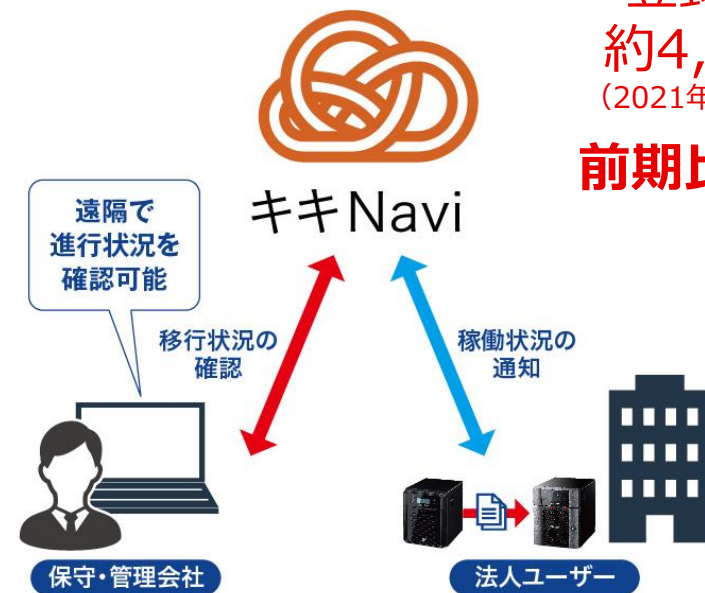
NASリプレイス時の業務負担を軽減する、 法人NAS向けの「設定・データ移行機能」を提供

旧機種から新機種へのリプレイスがカンタン
NASのリプレイスでデータ消失のリスクを減らす！

- 設定画面に従うだけで簡単リプレイス
- 設定も同時に移行で作業の手間を軽減
- 2021年7月より、法人向けNAS「TeraStation」シリーズを対象とした、「データ移行機能」の対応範囲を拡大



リモート管理サービス「キキNavi」との連携により、移行状況をリモートから確認可能



登録法人
約4,350社
(2021年9月末現在)
前期比181%

高性能空気清浄機「Airdog」のラインナップ拡充と ダイレクトマーケティング強化



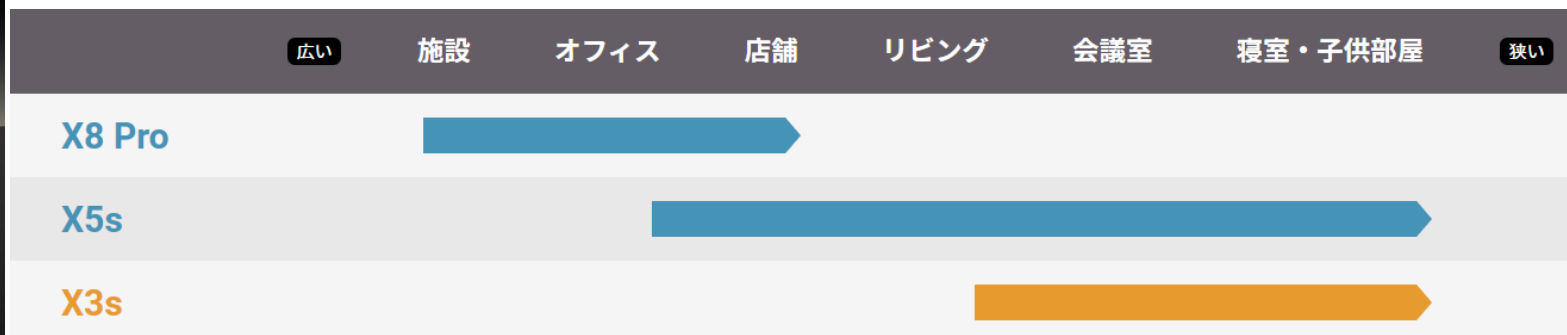
日本唯一の正規販売代理店：株式会社トゥーコネクト [toConnect](#)

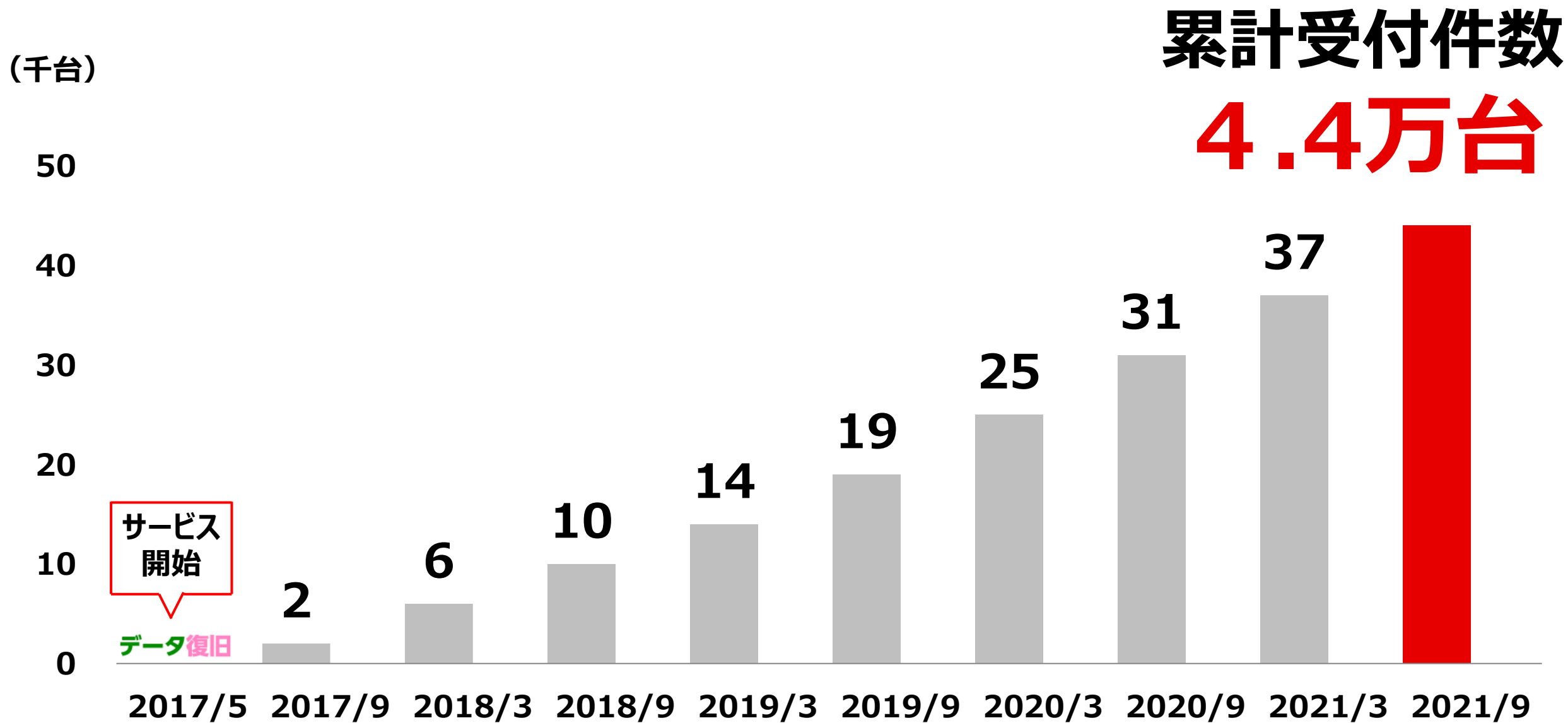


国内9,000カ所以上の医療施設が導入

(2021年9月末現在 Airdog X5sの導入実績)

- 2021年3月期通期売上高67億円
- 2022年3月期上期売上高84億円





累計導入戸数

10.2万戸

(千戸)

120

100

80

60

40

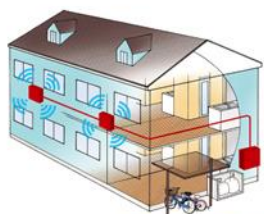
20

0

空室対策・退去防止に

バッファロー・IT・ソリューションズの

「アパートWi-Fi」



木造・鉄骨造の低層アパートに!



RC造のマンションに!

2014/9

2015/3

2015/9

2016/3

2016/9

2017/3

2017/9

2018/3

2018/9

2019/3

2019/9

2020/3

2020/9

2021/3

2021/9

0

1

3

6

9

19

24

36

45

62

74

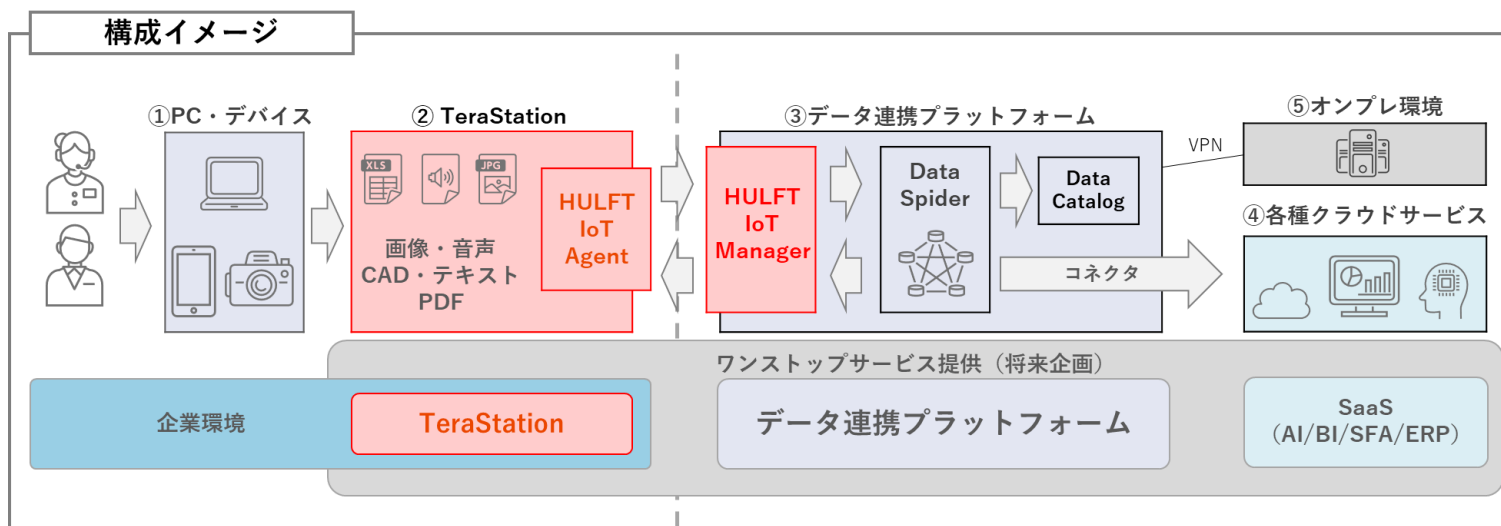
90

96

100

バッファローとセゾン情報システムズがNASデータの 利活用を促すプラットフォームの共同開発を発表

- バッファローの法人向けNAS「TeraStation（TS6000シリーズ）」に、セゾン情報システムズのIoTデータ連携ソリューション「HULFT IoT」を組み合わせることにより、中小から大企業まで多くのお客様市場をターゲットとする新たなビジネスモデルをご提案するものです。安全安心な社会基盤としてのインフラの構築を目的としております。
- これにより、インターネット環境が不安定でも、「HULFT」でつなぐことで、コストを重視しながらも確実な送信確認、および送達エラー時の再送信の自動化を実現するとともに、データの暗号化による安全安心な環境を実現します。情報システム担当者の不足やITスキルの課題を簡単な設定でカバーし、事業継続性の確保とBCPの確立を実現するものです。
- PCやデバイスから収集したログなどのデータをNAS「TeraStation（TS6000シリーズ）」へ集約し、「HULFT」がデータを暗号化することで、インターネット経由でもセキュアに送信が可能となるほか、データの圧縮、解凍、再送信も自動化することが可能です。



※2021年9月15日 バッファローのリリース文より

株式会社セゾン情報システムズとの資本業務提携契約締結について

※2021年10月29日 当社のリリース文より

資本業務提携先の概要

- 社名：株式会社 セゾン情報システムズ
- 上場市場：JASDAQスタンダード市場（コード9640）
- 所在地：東京都港区赤坂一丁目8番1号
- 代表者：代表取締役社長 内田 和弘
- 事業内容：HULFT事業
リンケージ事業
流通ITサービス事業
フィナンシャルITサービス事業
- 資本金：1,367百万円
- 設立：1970年9月1日

業務提携の主な内容

- セゾン情報システムズのHULFT事業及びリンケージ事業と、当社グループのバッファローを中心とするIT関連事業を対象とした、セゾン情報システムズと当社の製品を組み合わせた製品開発
- セゾン情報システムズと当社の販売チャネルの相互活用

なお、業務提携を推進するために、当社とセゾン情報システムズは、業務提携プロジェクトを設置し、当該プロジェクトにおいて、業務提携の具体的内容、実現可能性の検討、実施の有無、実施方法及び実施時期等について誠実に相互協議を継続することも合意しています。

中長期的で強固な関係を構築し、両社の企業価値の一層の向上を目指す

食品事業

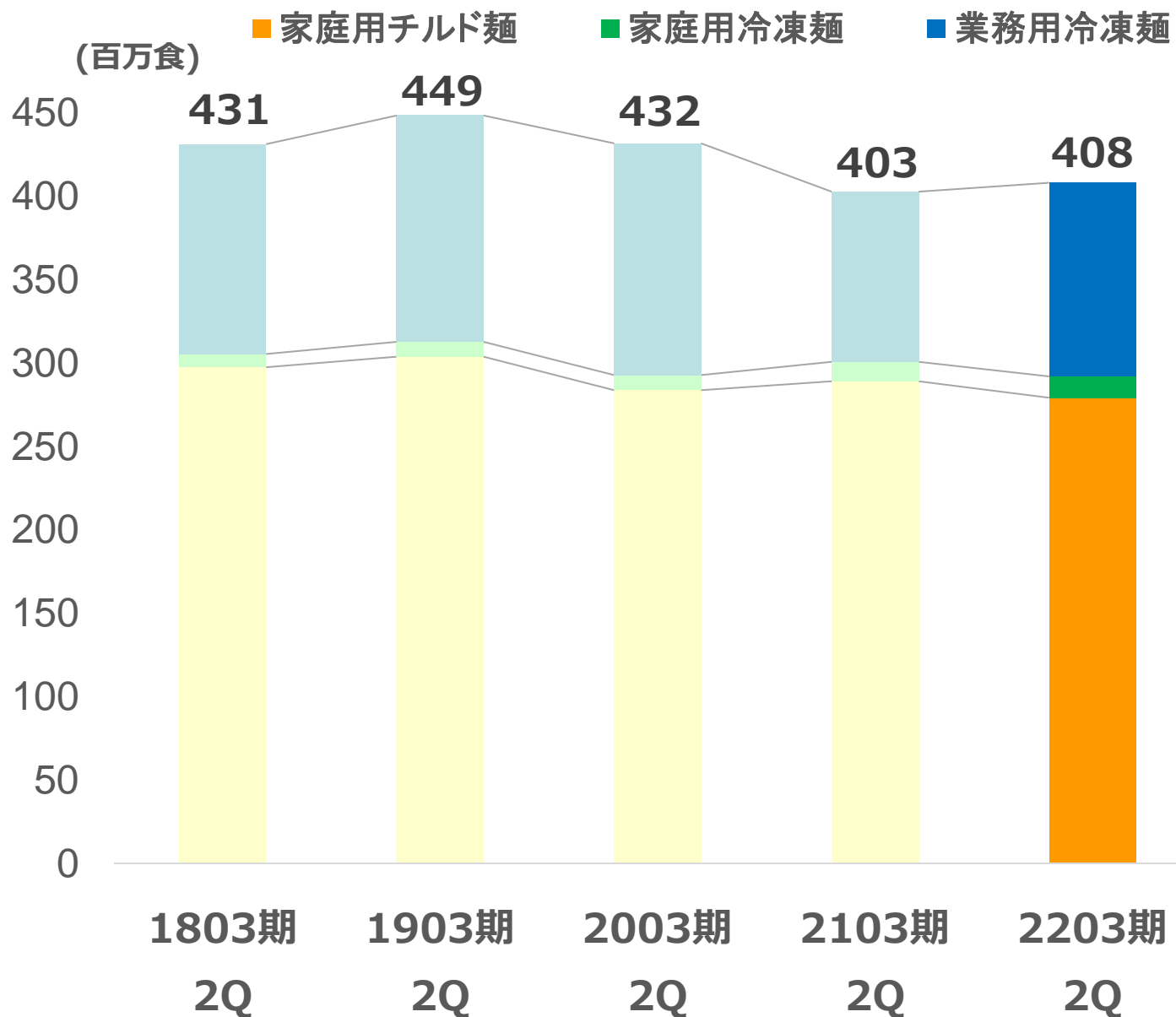
● 当社を取り巻く環境

- ◆ コロナの感染は、デルタ株の拡大により長期化、断続的な緊急事態宣言の発令
- ◆ 最需要期である8月の天候不順（低温・長雨）
- ◆ 世界的な需要回復・物流停滞・人手不足などに伴う需給逼迫による資源の高騰や不足が始まる

● 食品事業の業績

売上高 : 家庭用チルドは縮小も、家庭用冷凍・業務用冷凍が拡大し、
全体では前期並み

営業利益 : 経費削減や生産工場の合理化・効率化に努めるも、前期に
未実施のマーケティング投資を実施したことにより減益



家庭用チルド麺

前期特需の反動や天候不順により減少
 広告販促効果により焼そば類は拡大

家庭用冷凍麺

買い置き需要の高まり等により拡大が継続
 コロナ前から（前々期比）は約4割増

業務用冷凍麺

前期大幅減少の反動により拡大
 市場と同様にコロナ前の水準は下回る

全4回 「JCBギフトカード5,000円分プレゼントキャンペーン」実施

3・4月

焼そばキャンペーン



5・6月

中華麺キャンペーン



7・8月

「流水麺」キャンペーン



8・9月

焼そばキャンペーン



焼そば・「流水麺」テレビCM放映



※キャンペーン対象商品に限ります。詳しくは、店頭またはWebで。

焼そば

- ① 4月 ② 8～9月
- 地上波（東北・関東・中京・北陸信越）

「流水麺」

- ① 4～5月 ② 7月
- 地上波（東北・関東・中京・北陸信越・関西・中四国）

「健美麺」

家庭用チルド本そば、家庭用冷凍麺が拡大



「流水麺」

天候不順の影響で減少



LL麺・家庭用冷凍麺

家庭用冷凍麺は保存性と品質が評価され新規購入者が増加



健康

簡便

高品質

買い置き

経済性

2食高品質商品

広告宣伝の効果もあり、焼そば類やまぜそばが拡大



「太鼓判」

家庭用チルドで西日本専用「太鼓判」シリーズ新発売（9月）

冷凍麺（家庭用・業務用）は新規獲得によりいずれも拡大



付加価値を訴求したブランド商品を通じて、生活者を支援

「健康」価値を訴求した**「健美麺」**ブランドにより
生活者の健やかな食生活をサポート

家庭用チルド商品



家庭用冷凍商品



業務用冷凍商品



「経済性」価値に加えて、美味しさと日持ちを
兼ね備えた**「太鼓判」**ブランドを積極的に拡販

西日本専用**「太鼓判」**うどん・和そば・中華そば
を新発売、市場の活性化を図る



- JCBギフトカード5,000円分が当たる
消費者キャンペーンを実施中（12月10日まで）
- 北陸・中京・近畿地区で、テレビCMを放映
（10月25日～11月7日）

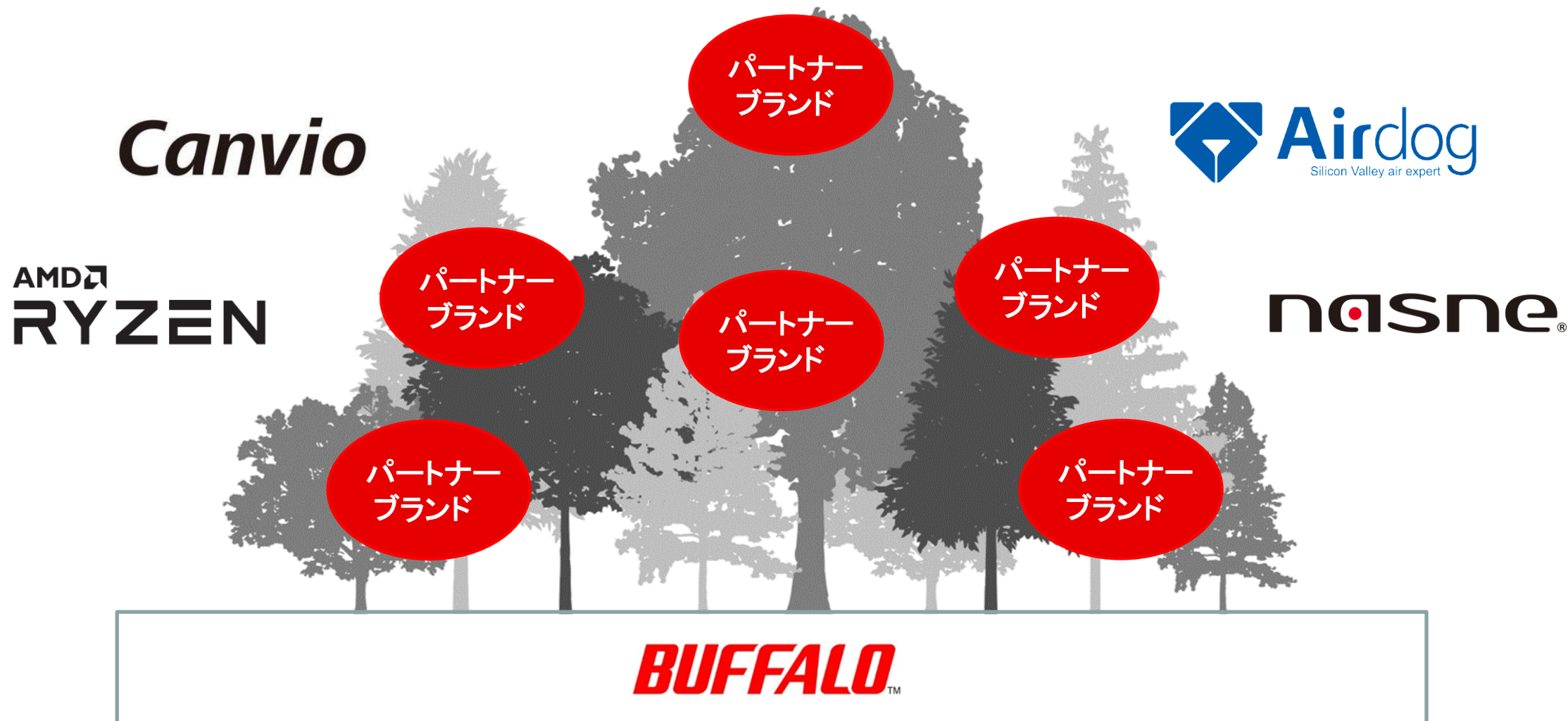
3. 2022年3月期 業績予想・ 資本政策の基本的な方針

単位：億円	2103期末 (実績)	2203期末 (予想)	前期比	
			増減額	増減率
売上高	1,299	1,400	+101	+8.0%
営業利益	88	97	+9	+9.6%
経常利益	90	100	+10	+10.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	66	72	+6	+8.7%
1株当たり当期純利益	402.08円	462.59円		

※「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額であり、対前期増減率については2021年3月期に当該会計基準等を適用して算定した増減率を記載しております。

※「1株当たり当期純利益」の算定上の基礎となる期中平均株式数については、2021年9月30日現在の発行済株式数（自己株式数を除く）を使用しております。

※億円未満は切り捨てて表示しております。



- ※ 「Canvio」は東芝デバイス&ストレージ株式会社の商標です。
- ※ AMD、Ryzen及びこれらの組み合わせは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標です。
- ※ 「nasne®」は株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメントの登録商標です。

成長への投資と安定した株主還元を両立し、持続的な株主価値の向上に努めていきます。

① 総還元性向80%以上を目標とする

※2022年3月期～2023年3月期までの2期

② 長期的な一株当たり利益の成長を目指す

※2021年2月15日 当社リリース文より

4. メルコグループの紹介

株式会社メルコホールディングス 純粋持株会社

IT関連事業

BUFFALO

デジタル家電・パソコン周辺機器メーカー
及びデータ復旧サービス

CFD

IT製品の総合サプライヤー

BUFFALO

IT Solutions

アパートWi-Fiなど自社サービスを展開

ADC Advanced Design Corp.
アドバンスデザイン株式会社

データ復旧/消去/変換サービスなど

BIOS

ストレージ関連製品の開発・製造・販売

DigiOn

ネットワーク・ストレージソフトウェアの開発・販売

toConnect

ダイレクトマーケティング事業

[海外] Buffalo Americas 他

食品事業



麺類及び関連食料品の製造及び販売

金融事業

メルコフィナンシャルホールディングス
グループにおける金融事業の統括管理

森の経営 外部環境の変化に機敏に対応、常に次の時代に備え芽を育てる





外的環境の変化に耐えうる、強固な事業 ポートフォリオの構築を目指す

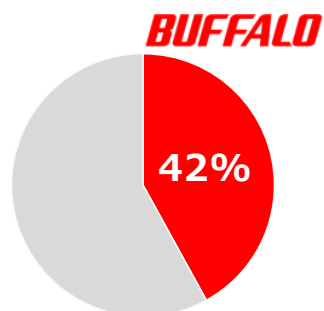
- ◆ IT関連事業の収益力強化
- ◆ 高付加価値商品・サービスの販売拡大
- ◆ 食品事業の売上/収益の安定化
- ◆ 継続的なロスコストの削減
- ◆ 事業拡大のためのM&A など

⇒長期的な視点で企業活動を行なっていく

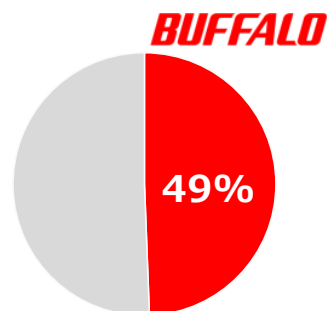
高い店頭シェアを誇り、多くの製品がシェアNo.1

メルコグループ

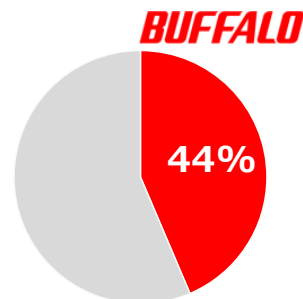
無線LAN



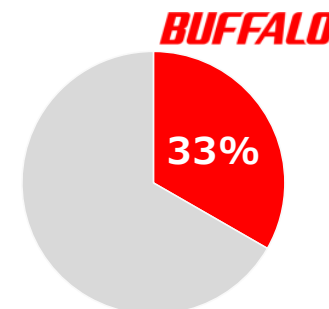
外付HDD



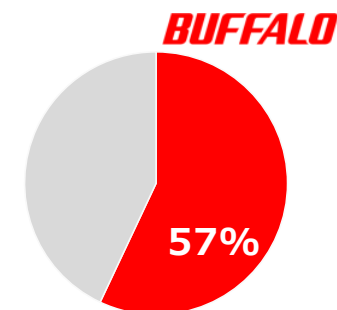
外付SSD



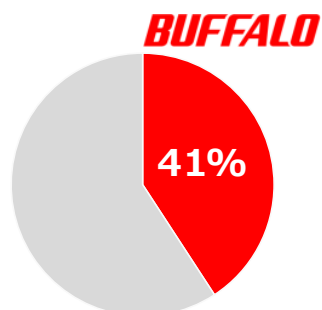
USBメモリ



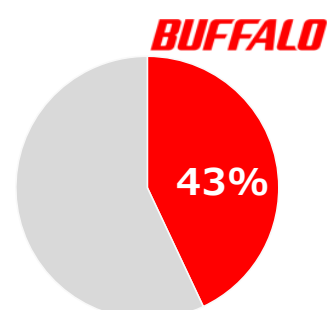
NAS



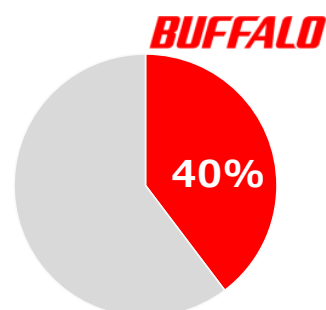
記録型DVDドライブ



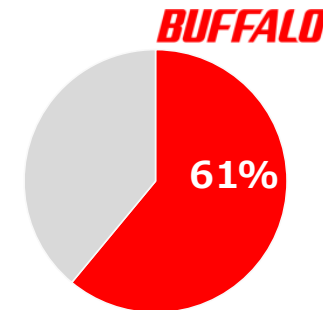
LANカード



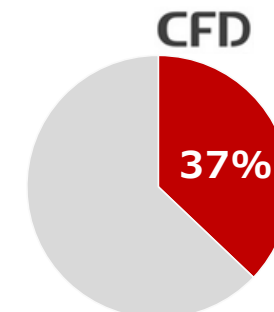
HUB



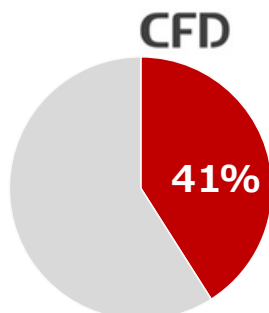
ルータ



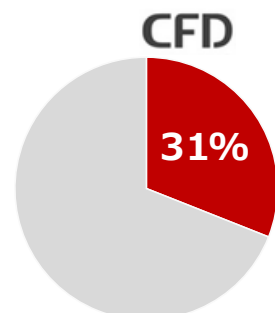
PC電源



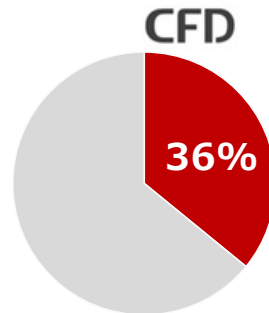
拡張IF



ドライブケース



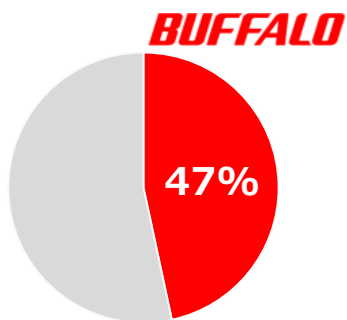
メモリ



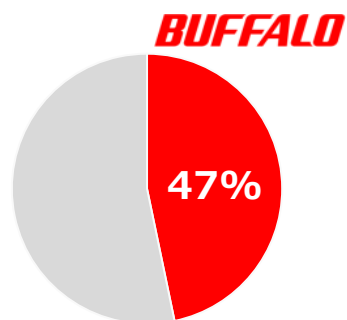
BCNランキング

(2021年4月～2021年9月のデータを元に集計・加工)

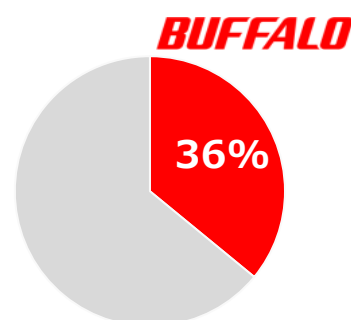
無線ルータ



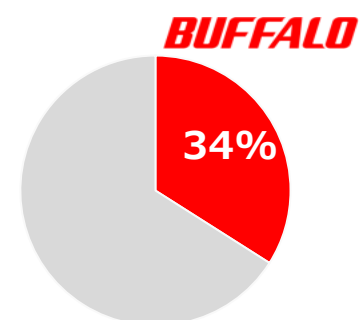
外付（据置型）HDD



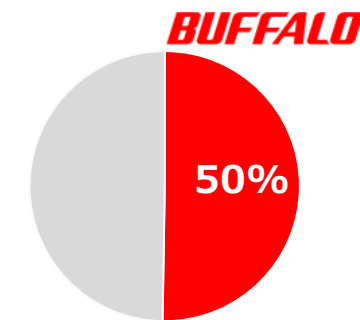
ポータブルHDD



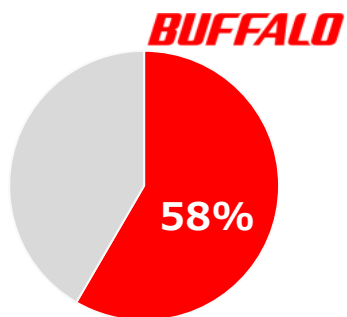
ポータブルSSD



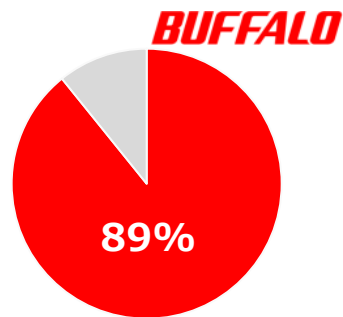
NAS



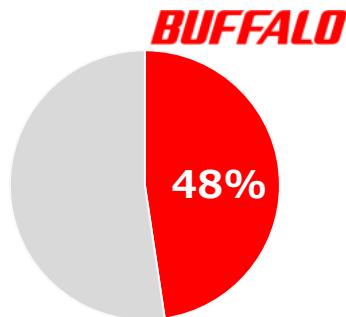
無線中継機



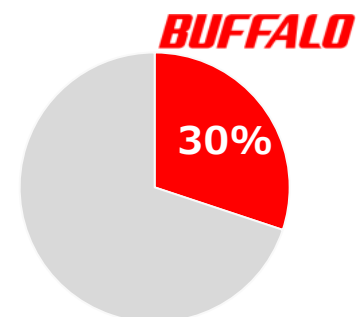
有線ルータ



イーサネットハブ



外付けDVD



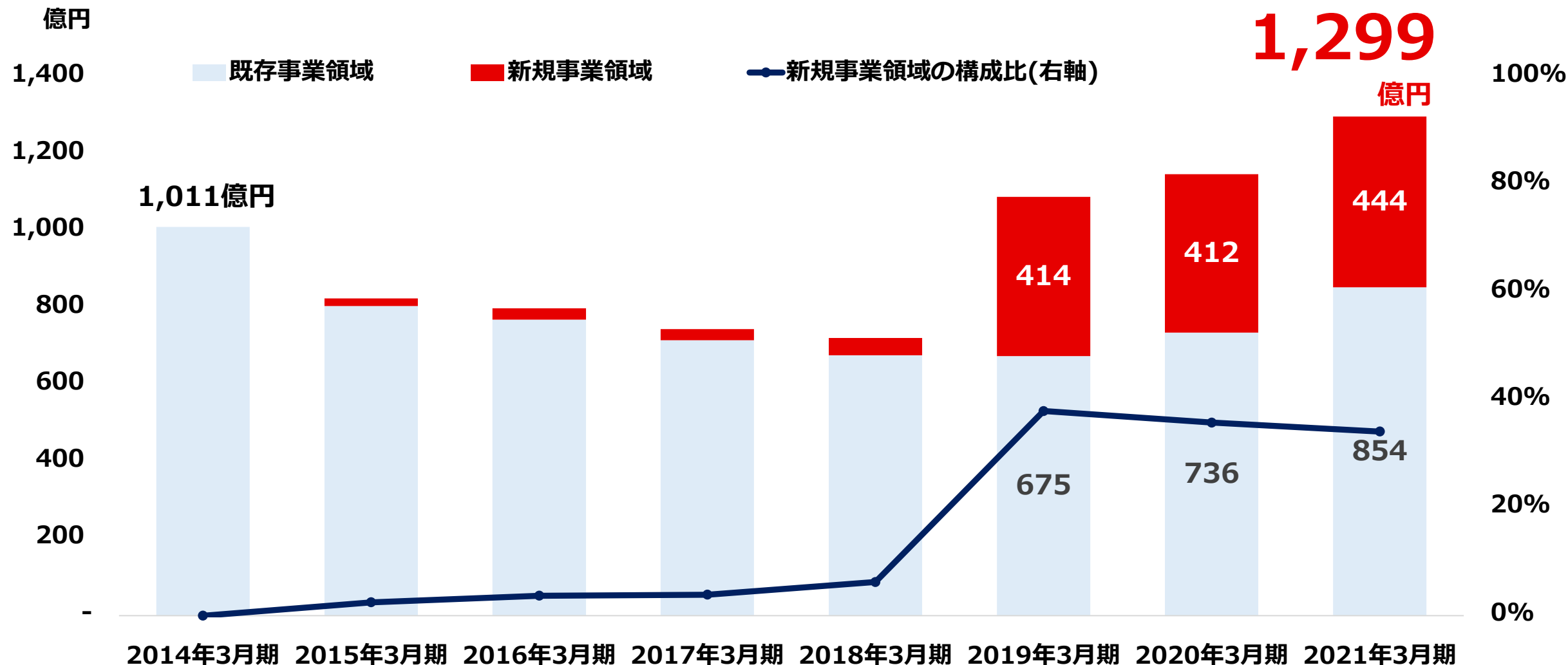
- ※1：無線ルータは、『ルータ』より「伝送方式」から「共有」を抽出
- ※2：外付（据置型）HDDは、『STORAGE』より「外付けタイプ」から「据置」を抽出
- ※3：ポータブルHDDは、『STORAGE』より「外付けタイプ」から「ポータブル」を抽出
- ※4：ポータブルSSDは、『STORAGE』より「外付けタイプ」から「ポータブル」を、「ストレージ種類」から「SSD」を抽出
- ※5：NASは、『STORAGE』より、「LANインタフェース」から「ワイヤード、ワイヤレス、他LAN」を抽出
- ※6：有線ルータは、『ルータ』より「伝送方式」から「有線」を抽出
- ※7：無線中継機は、『アクセスポイント』より集計
- ※8：外付けDVDは、『DVDドライブ』より、「本体タイプ」から「外付けタイプ」を抽出

全国の有力家電量販店販売実績を集計するGfK Japan調べ（2021年4月～2021年9月までのデータを元に集計）

※メーカー別販売数量シェア

5. 参考資料

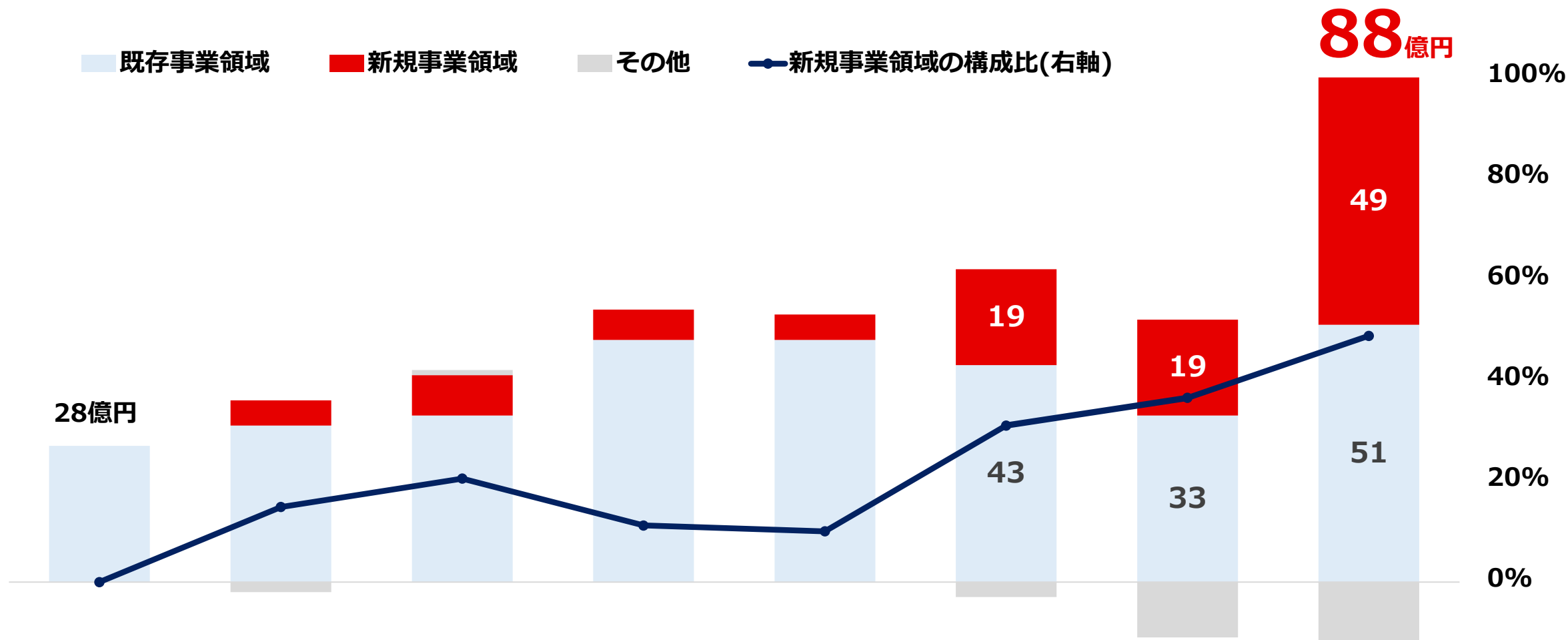
連結売上高推移（本決算ベース）



※既存事業領域：パソコン周辺機器事業、 新規事業領域：2014年以降に開始した新規事業領域等

※億円未満は切り捨てて表示しております。

連結営業利益推移（本決算ベース）

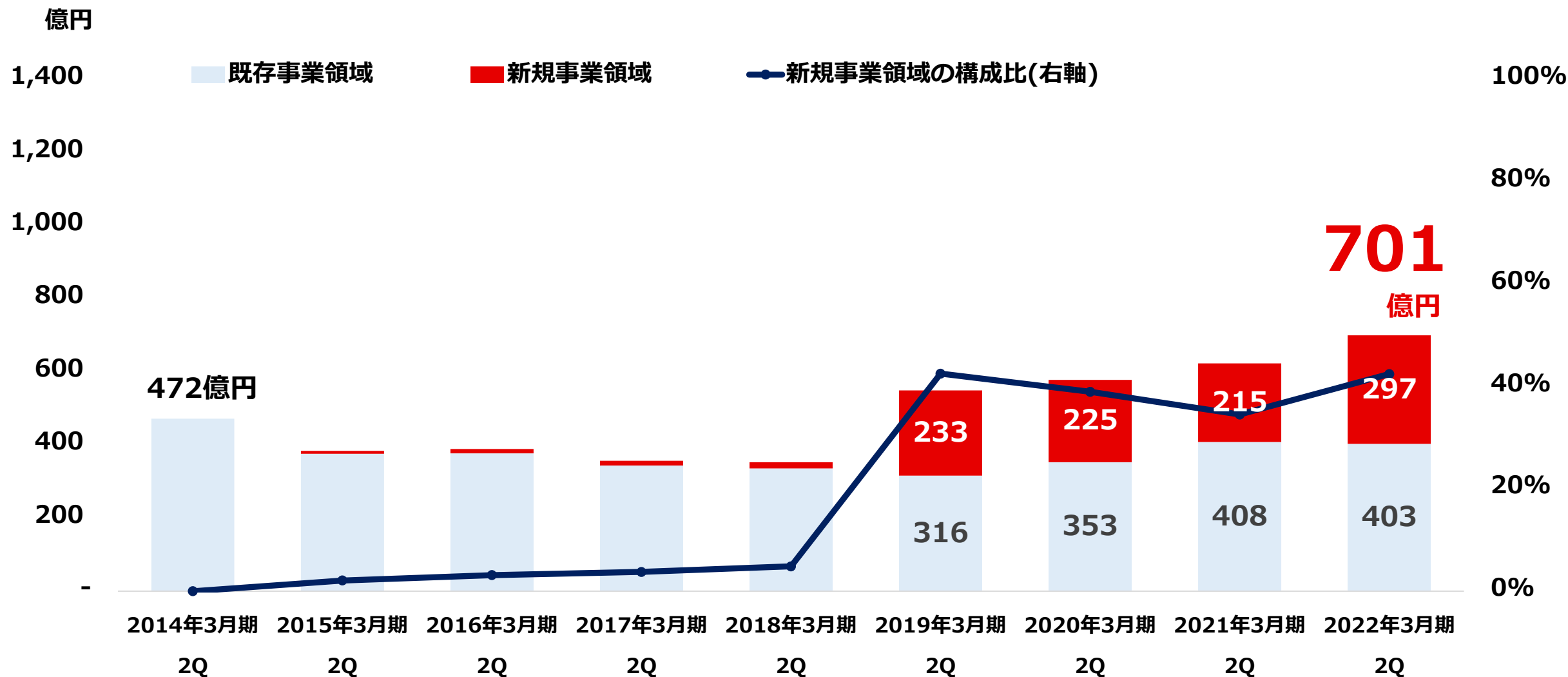


2014年3月期 2015年3月期 2016年3月期 2017年3月期 2018年3月期 2019年3月期 2020年3月期 2021年3月期

※既存事業領域：パソコン周辺機器事業、 新規事業領域：2014年以降に開始した新規事業領域等、 その他：当社グループ全体に関する本社費用およびセグメント間取引消去

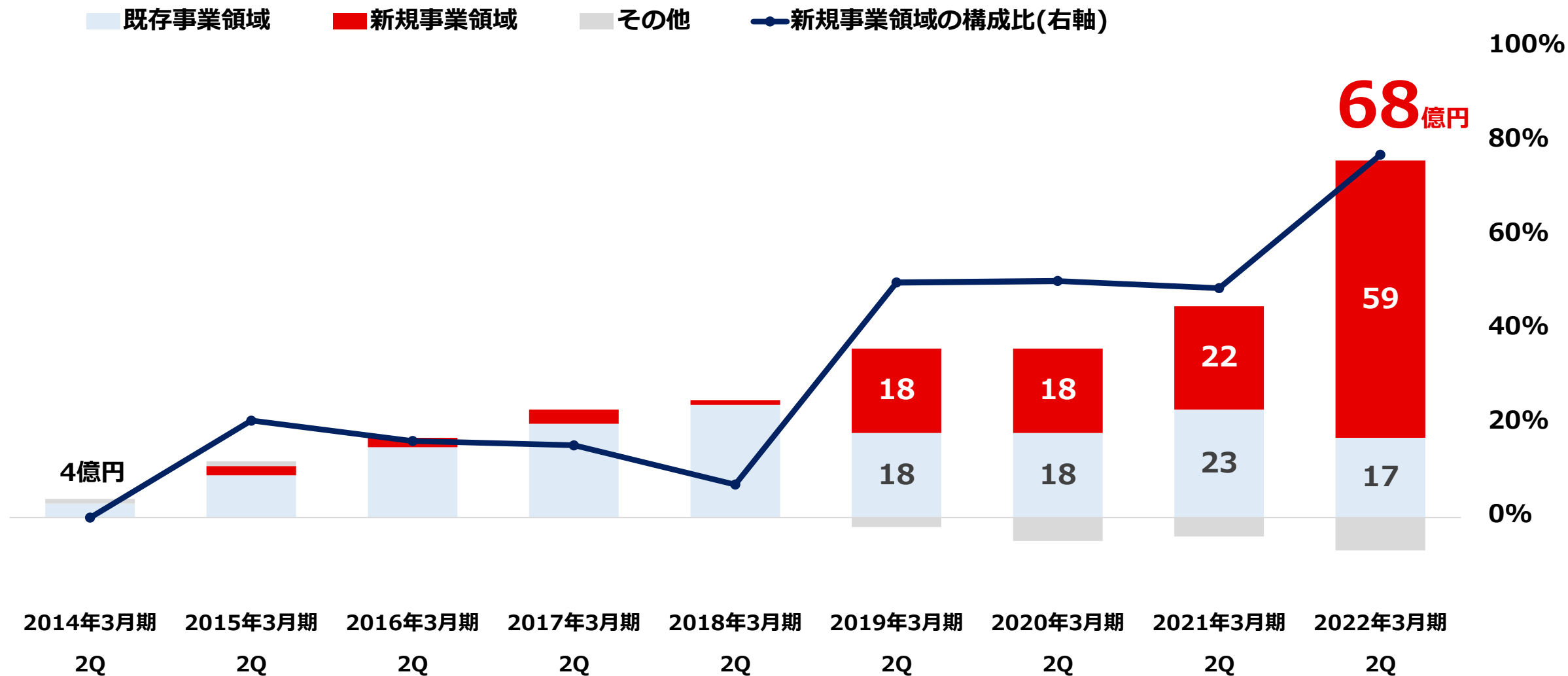
※億円未満は切り捨てて表示しております。

連結売上高推移（中間決算ベース）



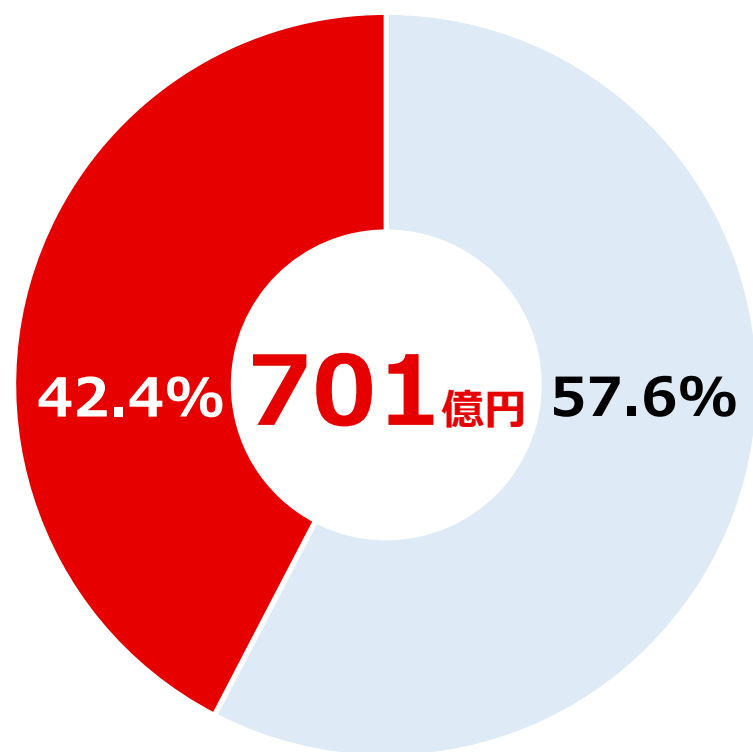
※既存事業領域：パソコン周辺機器事業、新規事業領域：2014年以降に開始した新規事業領域等
 ※億円未満は切り捨てて表示しております。

連結営業利益推移（中間決算ベース）

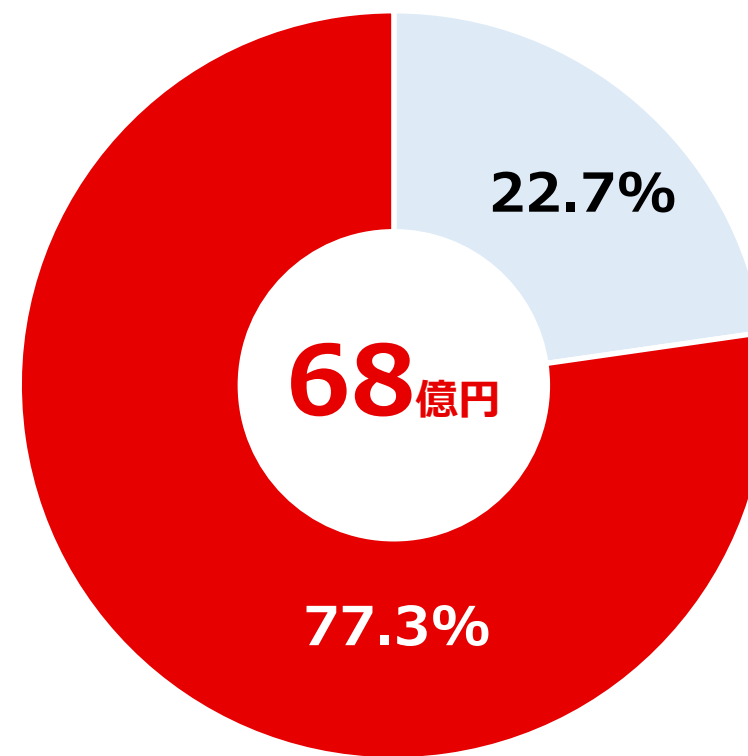


※既存事業領域：パソコン周辺機器事業、新規事業領域：2014年以降に開始した新規事業領域等、その他：当社グループ全体に関する本社費用およびセグメント間取引消去
 ※億円未満は切り捨てて表示しております。

2022年3月期第2四半期 連結売上高



2022年3月期第2四半期 連結営業利益

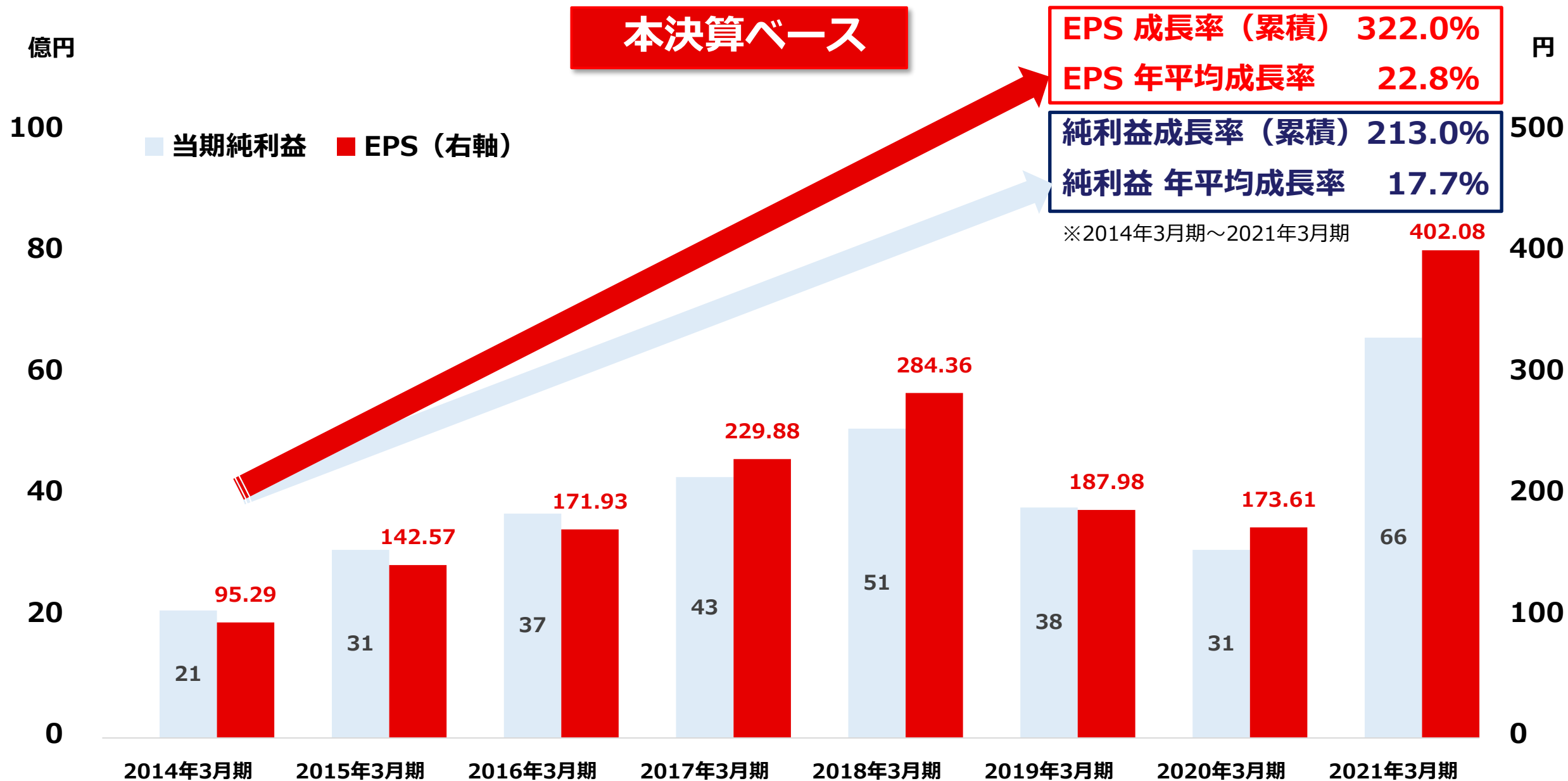


■ 既存事業領域 ■ 新規事業領域

※既存事業領域：パソコン周辺機器事業、新規事業領域：2014年以降に開始した新規事業領域等

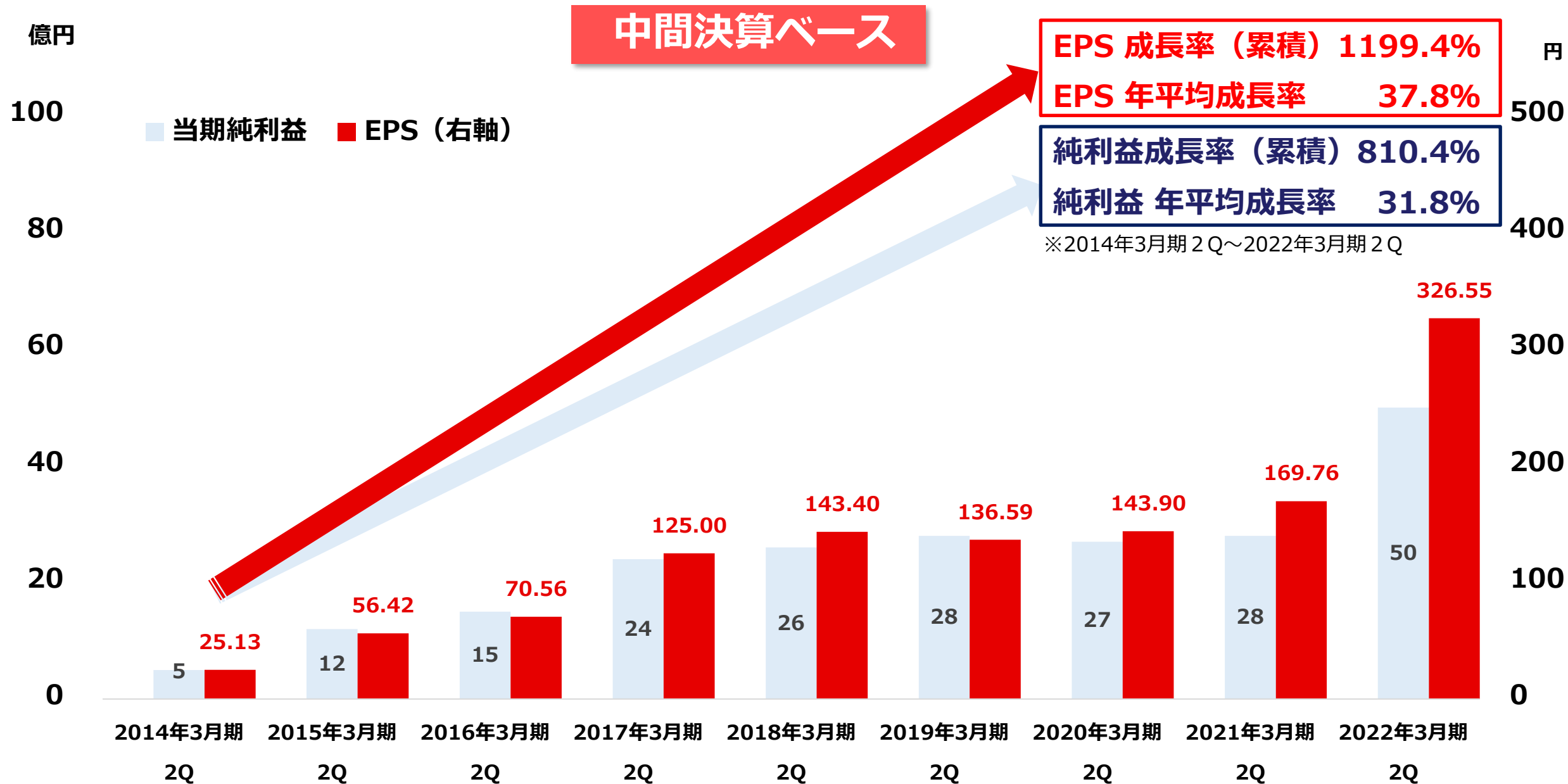
※億円未満は切り捨てて表示しております。

当期純利益 / EPS 推移①

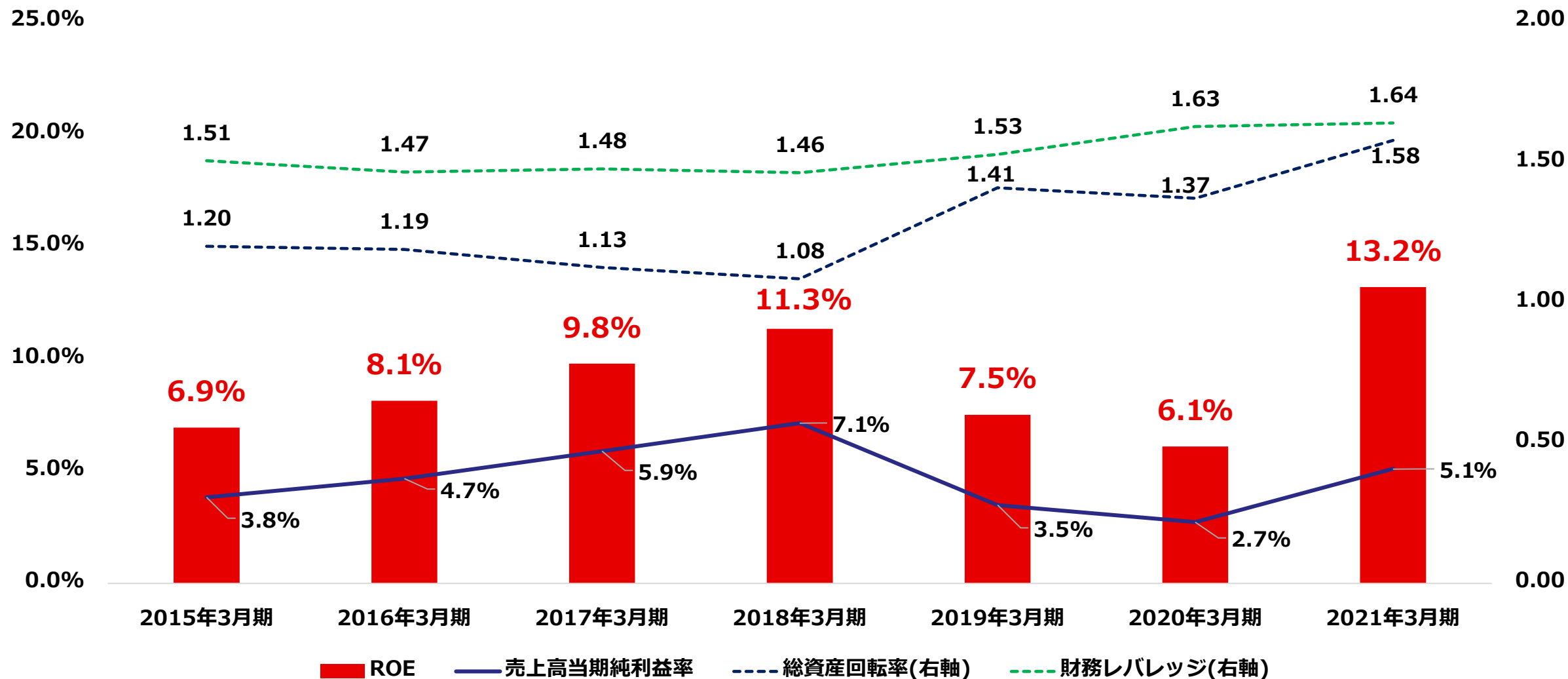


※億円未満は切り捨てて表示しております。

当期純利益 / EPS 推移②



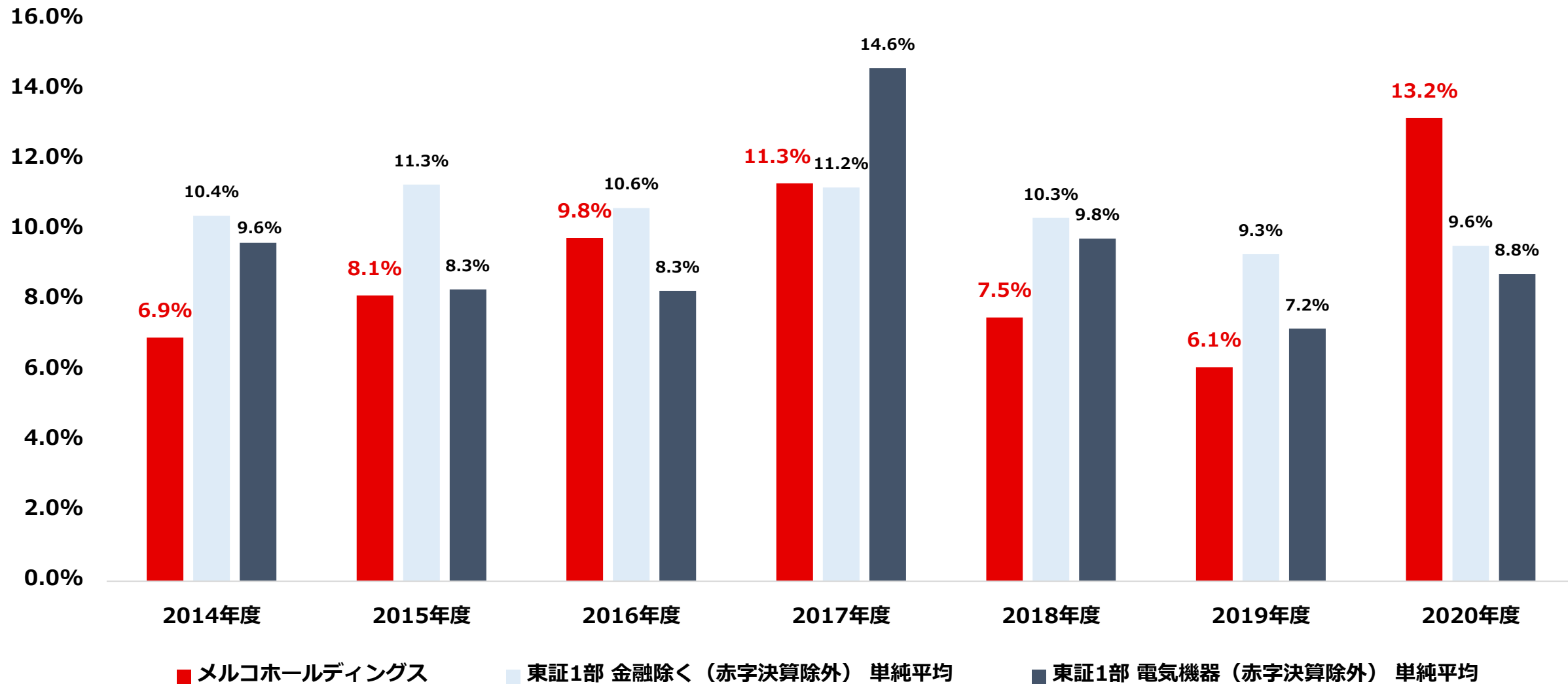
※億円未満は切り捨てて表示しております。



※ROE = 当期純利益 ÷ 自己資本 (期首・期末平均)

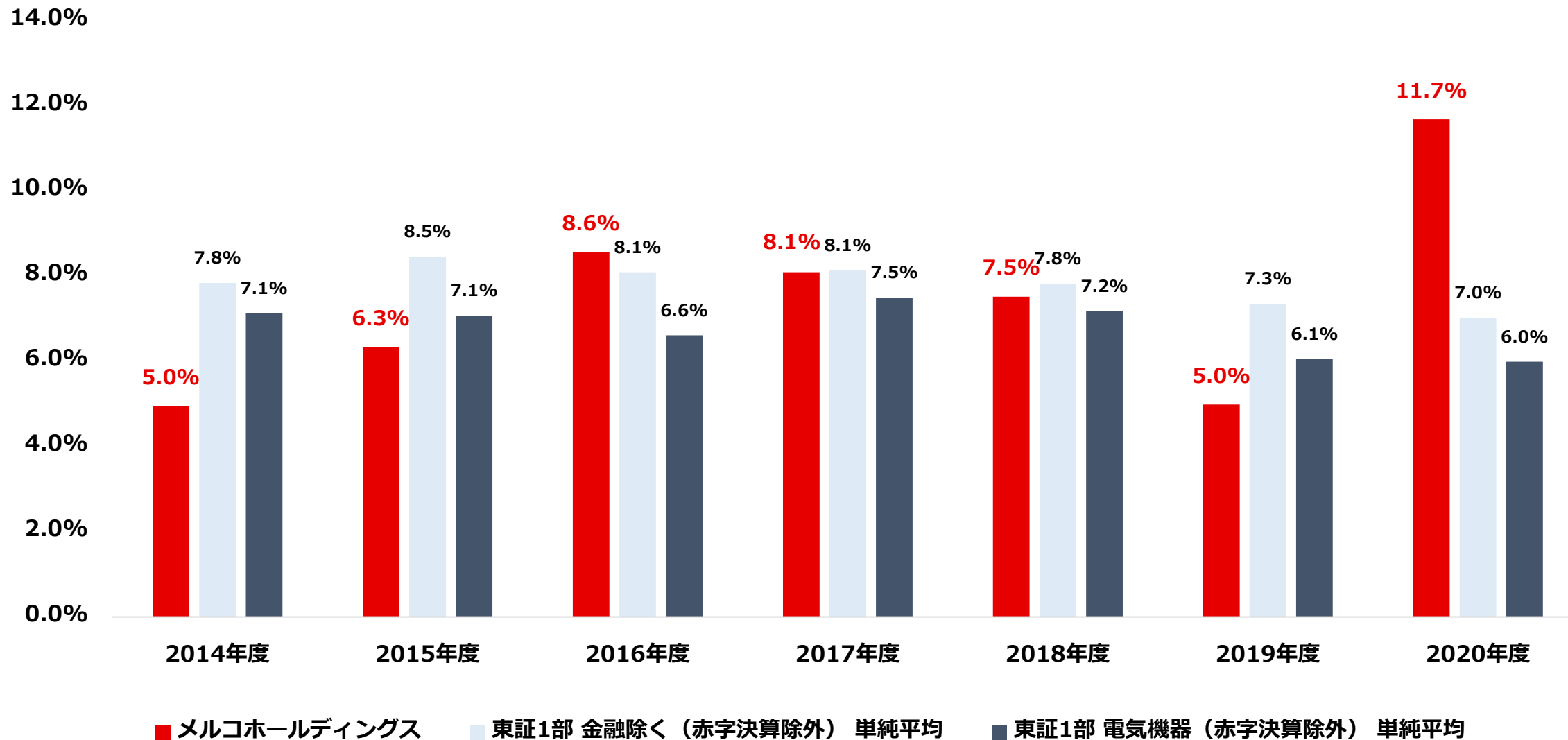
※売上高当期純利益率 = 当期純利益 ÷ 売上高、 総資産回転率 (回) = 売上高 ÷ 総資産 (期首・期末平均)、 財務レバレッジ (倍) = 総資産 (期首・期末平均) ÷ 自己資本 (期首・期末平均)

※2019年3月期より「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日改正)を適用しております。当該会計方針の変更は遡及適用され、2018年3月期以前のROEは、遡及修正後の数値に基づき計算しております。



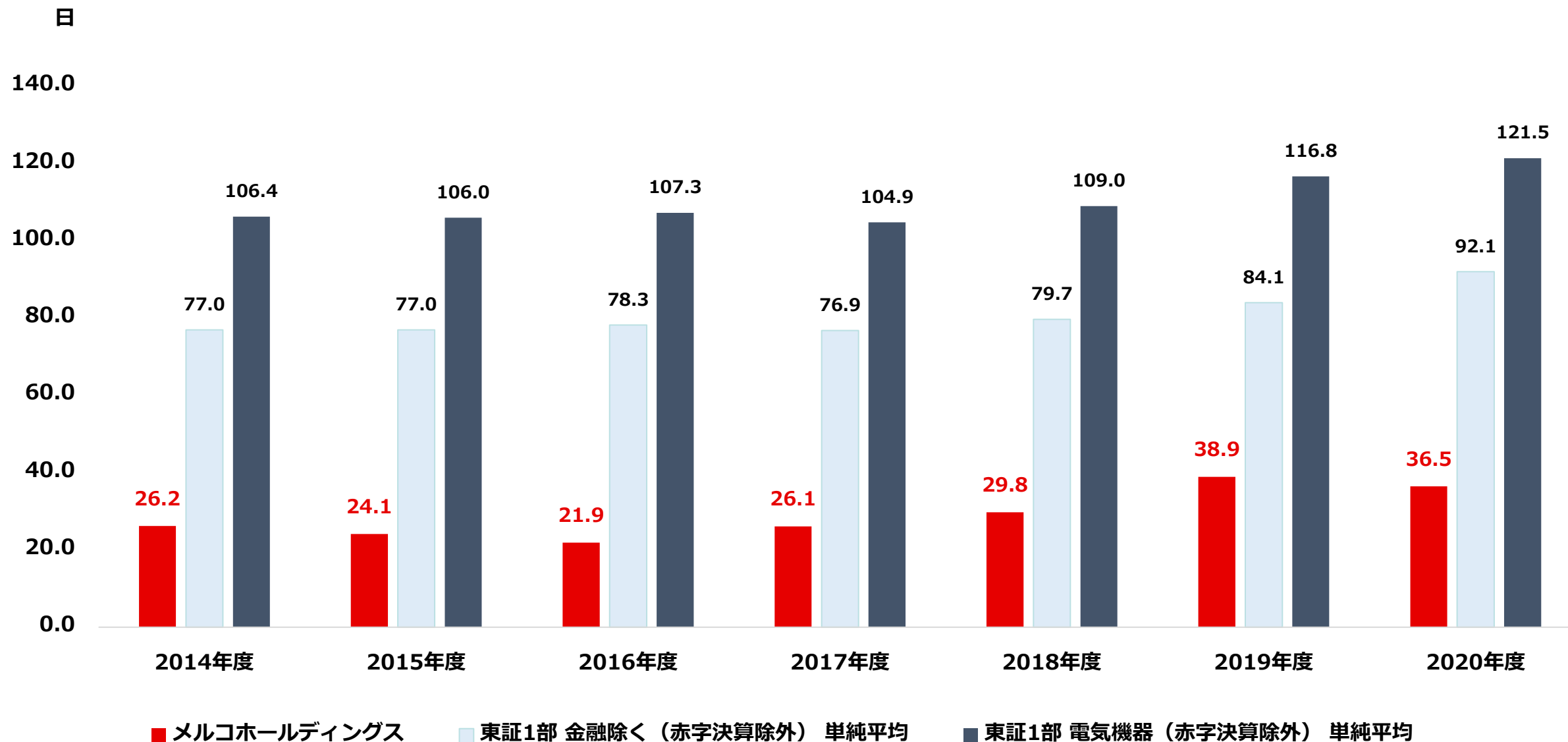
※ROE = 当期純利益 ÷ 自己資本 (期首・期末平均)

※東証1部 (金融除く) 平均、及び、東証1部電気機器平均については、証券会社資料より。



※ROIC = 税引後営業利益 ÷ 投下資本 (期首・期末平均) 投下資本 = 株主資本 + 有利子負債 税引後営業利益は、法定実効税率 (東京都) を使用して算出しております。
 ※東証1部 (金融除く) 平均、及び、東証1部電気機器平均については、証券会社資料より。

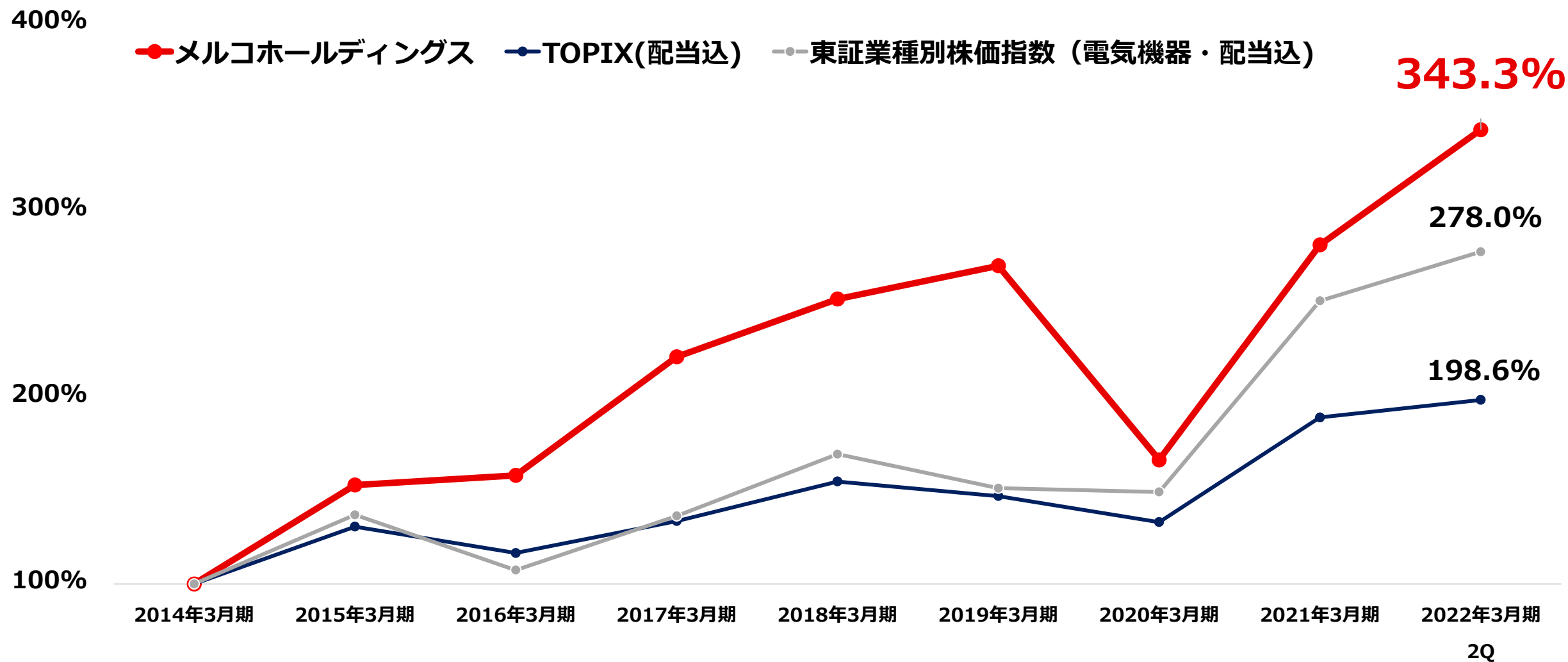
キャッシュコンバージョンサイクル 推移 (東証1部比較)



※キャッシュコンバージョンサイクル(CCC)=売上債権回転期間 + 棚卸資産回転期間 - 仕入債務回転期間

※東証1部 (金融除く) 平均、及び、東証1部電気機器平均については、証券会社資料より。

株主総利回り (TSR) 推移



※2014年3月31日の終値を100とした配当込株価(指数)
※2022年3月期中間配当金50円で計算

- 本資料の作成は、正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。
- 本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。本資料中の業績見通しならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。
- そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は記述されている将来見通しとは異なる結果となることをご承知おきください。

＜お問合せ先＞

株式会社メルコホールディングス IR部

TEL : 050-5830-8865 / FAX : 050-5830-8867

E-mail : ir@melcoinc.co.jp